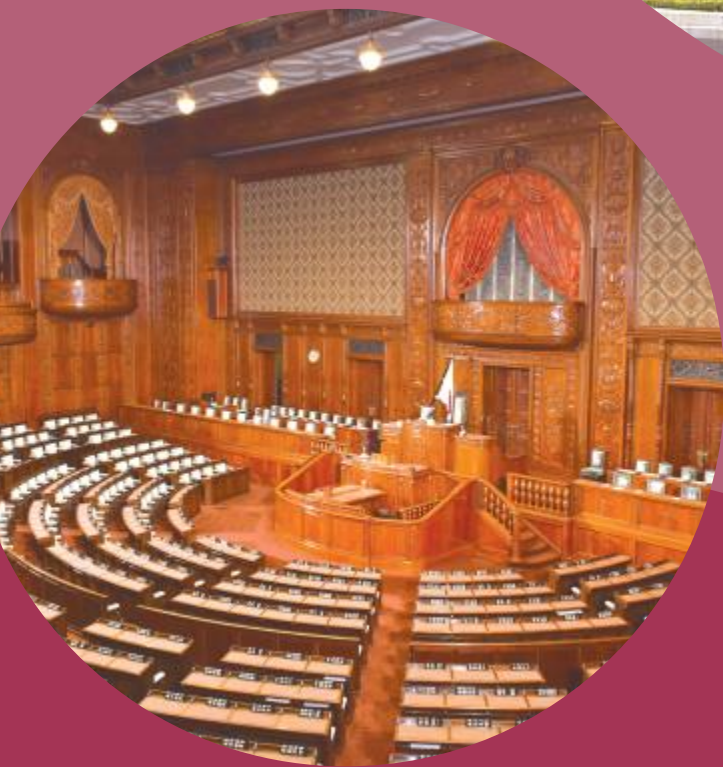


国政の中心に、
いざ。



衆議院 事務局

Secretariat, House of
Representatives, Japan

2025

より良い議会政治の実現を目指して

PAGE CONTENTS

- 3 衆議院事務局組織図
- 5 会議運営部門 一本会議を支える―
- 7 会議運営部門 一委員会を支える―
- 9 調査部門 一議論を内容面から支える―
- 11 立法過程における会議運営部門・調査部門の役割
- 13 職員の声
- 21 いろいろな場所で活躍する衆議院事務局職員
- 22 キャリアパス 一職員の歩み―
- 27 管理職の部屋
- 28 研修制度
- 29 先輩インタビュー 一新人が聞いてみました！―
- 32 若手職員に聞きました！
- 33 Q & A 一採用と働き方について―

衆議院事務総長の築山です。令和6年(2024年)6月21日の本会議で事務総長に選出されました。事務総長は、事務局職員のトップであると同時に議院の運営に重要な役割を担うことから、議員ではないにもかかわらず国会役員として位置づけられております。

国会は、憲法上、国権の最高機関であり唯一の立法機関とされていますが、国会の立法機能や行政監視機能を適切に行使するためには、議員の活動を補佐する我々事務局の役割は重要です。最終的に判断をするのは選挙で選ばれた国会議員ですが、その判断をする上では、法規や先例に関する正確な知識、各省片が所管する国政全般に関する最新のデータやその分析、提出された法案の論点等について、事務局から適時適切に議員に情報提供を行う必要があります。行政機関に比べると少ない人数で業務を行っているので、少数精鋭主義で日頃から努力していく必要もあります。

現在、日本は少子高齢化の困難な時代を迎えており、また、世界情勢も不安定な状況にあります。そうした中で立法機関と行政機関が切磋琢磨することで、日本の国家国民のためのより良い議会政治を実現していくことが求められており、衆議院事務局で働く意義は大きなものと言えるでしょう。

他方で、衆議院事務局では、ワークライフバランスにも配慮しており、残業も比較的少なく、各種休暇や育児休業、フレックスタイム等も取得しやすく、公私ともに充実した生活を過ごせると思います。また、人事異動に際しても、各自の意向を最大限尊重しており、「優しい職場」と言えます。

あなたがこのパンフレットをご覧になったことは何かの御縁かと存じます。衆議院事務局で働くことをどうぞ真剣にご検討ください。一緒に働けることを楽しみにしております。



衆議院事務総長

築山 信彦

衆議院事務局組織図

秘書課		秘書課 議長公邸 副議長公邸	衆議院議長・副議長・事務総長の秘書事務を行う。議長・副議長関係の文書の接受や発送のほか、議員の請暇・欠席、辞職・補欠等に関する事務も行う。 ➡P13		
会議運営部門	議事部	議事課	本会議の運営に関する事務を行う。法規・先例に則った円滑な本会議運営の確保のため、事前準備の段階から多岐にわたる事務を行う。事務をスムーズに進めるに当たり、事務局内各部署、各会派事務室、政府側担当者といった関係先との連絡調整を密にすることが求められる。 ➡P5～P6		
		議案課	議案（法律案、予算、条約等）に関する事務を行う。議案の受理、委員会への付託、参議院への送付など、それぞれの手続きにおいて、根拠となる法規や先例に則った取扱いを行うべく、細心の注意が求められる。また、質問主意書*の受理、内閣への転送及び内閣からの答弁書の受領も行う。 ➡P13 *国会議員が内閣に対して質問する際に作成する文書のこと。議長の承認後、内閣に転送される。内閣は質問主意書を受け取った日から7日以内に答弁しなければならない。		
		請願課	請願・陳情・意見書に関する事務を行う。請願書の受理、請願の付託委員会の選定、採択された請願の処理経過の報告の受領等を行う。また、陳情・意見書に関しても同様に、受理や参考送付すべき委員会の選定等を行う。		
		資料課	国会に関する文献・資料の調査・収集・整理、会議録の保存等に関する事務を行う。衆議院に関する法規集の編集も行う。		
	委員部	総務課	委員会の運営に関する事務を行う。委員会の主宰者である委員長のもと、委員会の開会日時や案件等について合意が得られるよう、各理事や政府関係者の間で調整役を務めるほか、委員長や各理事に対して運営に関する法規・先例を説明するなど、委員会が公正・円滑に運営されるよう努めている。また、委員会開会に当たっては、タイムテーブル等運営に必要な資料の作成、委員・関係各所への連絡、出席者の調整、委員室のセット等を行う。委員会当日も、あらゆる不測の事態に備えながら、質疑のタイムキーパー役、採決の際の可否確認などを行い、会議の進行を見守る。 ➡P7～P8、P14		
		議院運営課			
		第一課～第七課			
		調査課			
	記録部	第一課 会議録データ管理室	第二課	本会議・委員会等の速記及び会議録の編集を担当している。また、会議録のデータ化や会議録データの管理・運用を行っている。 ➡P16	
		第三課	第四課		
警務部	警務課	警備課	議長の指揮を受けて議院内部の警察を行う。具体的には、本会議場・委員室・院内各所の警備や正副議長・政府要人・外国からの賓客等の警護に当たる。また、国会見学に訪れる参観者を案内し、国会議事堂について分かりやすく説明する。 ➡警務部の詳細については「衛視採用案内」をご覧ください。		
	調整課	防災課			
庶務部	議員課	文書課	議員・議員秘書に関する事務のほか、文書・公報に関する事務、人事、会計、建物や設備の管理等、衆議院のライフラインを担う。 ➡P15、P19、P20		
	広報課	人事課 企画室			
	会計課	営繕課 PFI推進室			
	電気施設課	情報基盤整備室			
管理部	管理課	議員会館課	議員会館や議員宿舍の管理事務、事務局職員の福利厚生に関する事務などを行う。 ➡P15		
	自動車課	印刷課			
	厚生課	業務課			

国際部	総務課 議員外交支援室	議員の海外派遣、外国からの来賓の招聘に関する事務、国際会議に関する事務などを通じて衆議院の議員外交を支える。 ➡P17～P18
	渉外課	
	国際会議課	
憲政記念館	資料管理課	憲政記念館の管理、運営を行い、立憲政治に関する文献や資料の収集、保管、展示等を行う。 ➡P18
憲法審査会事務局	総務課	日本国憲法及び日本国憲法に密接に関連する基本法制について広範かつ総合的に調査を行い、憲法改正原案、日本国憲法に係る改正の発議又は国民投票に関する法律案等を審査するための事務を行う。 ➡P19
	調査部門	
情報監視審査会事務局	総務課	行政における特定秘密の保護に関する制度の運用を常時監視するため、特定秘密の指定及びその解除並びに適性評価の実施の状況について調査する。また、議院又は各委員会からの特定秘密の提出の要求に係る行政機関の長の判断の適否等を審査するための事務を行う。

調査部門	調査局	総務課	調査情報課	各委員会における議案等の審査や国政調査に関する調査を行う。また、議員個人からの依頼に応じて、施策の実施状況や法律の内容等を説明したり、質疑のための資料作成等を補佐するほか、衆議院内外への情報発信等を通じて、国会の議論に資する調査を提供している。 ➡P9～P10、P14
		内閣調査室	総務調査室	
		法務調査室	外務調査室	
		財務金融調査室	文部科学調査室	
		厚生労働調査室	農林水産調査室	
		経済産業調査室	国土交通調査室	
		環境調査室	安全保障調査室	
		国家基本政策調査室	予算調査室	
		決算行政監視調査室	第一特別調査室	
		第二特別調査室	第三特別調査室	
		北朝鮮による拉致問題等に関する特別調査室		
		東日本大震災復興特別調査室		
		原子力問題調査特別調査室		
		地域活性化・こども政策・デジタル社会形成に関する特別調査室		



会議運営部門 ―本会議を支える―

衆議院本会議は、衆議院の全議員からなる会議体であり、衆議院の意思はここで最終決定されます。本会議で扱われるのは、内閣総理大臣の指名、国務大臣の演説及びこれに対する質疑^{※1}、予算・法律案等の審議など多岐にわたります。この本会議を取り仕切るのが衆議院議長です。

下の写真は、施政方針演説の際の衆議院本会議の様式です。衆議院事務局職員は、衆議院議長のすぐそばで議長の議事進行を補佐しています。

事務局幹部職員

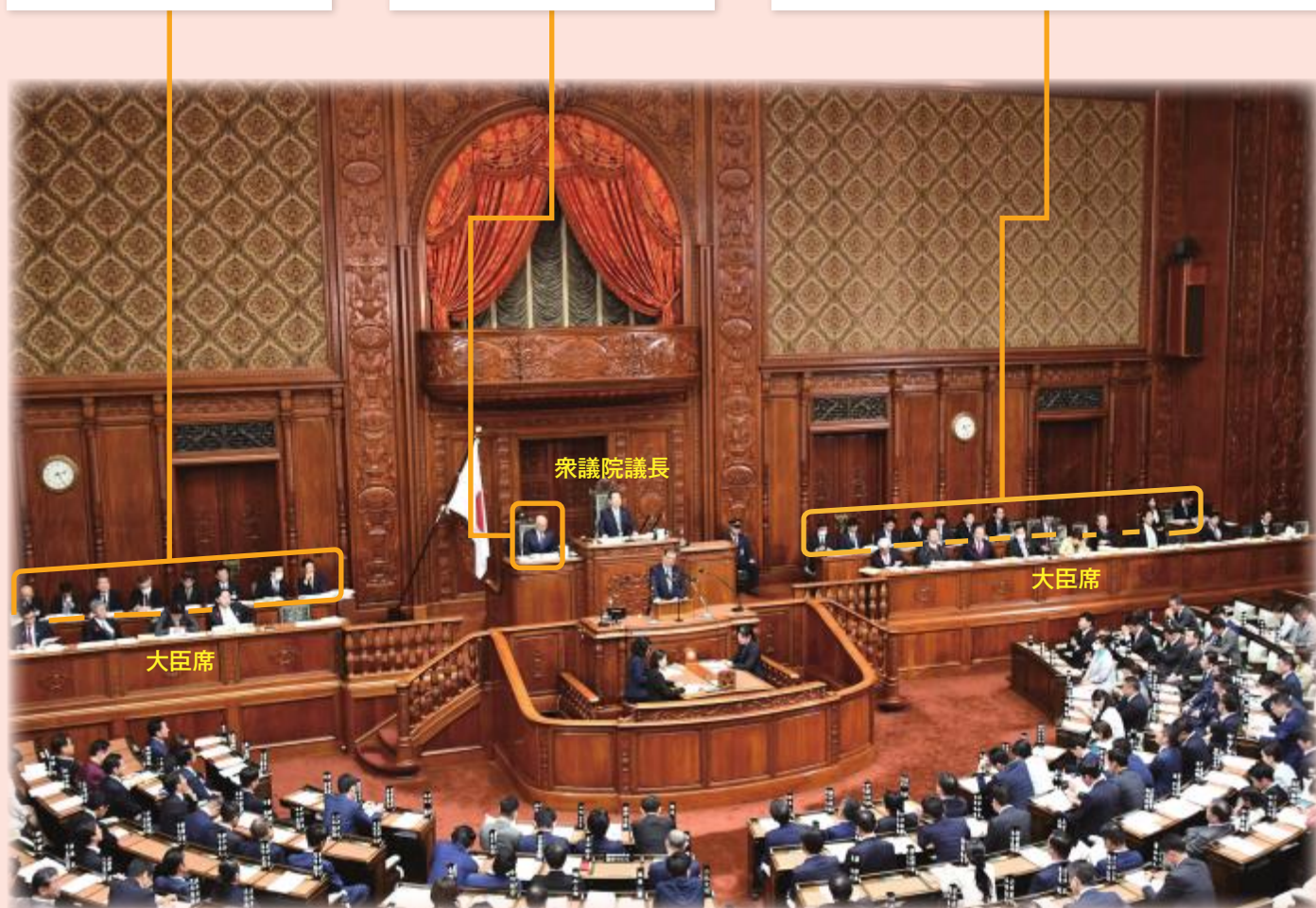
衆議院事務局の幹部職員。右から事務次長、各部長と続く。

事務総長

衆議院事務局の長。議院の役員として議長の職務を代行したり、議事整理に関し議長を補佐する等、議長を全般的に補佐している。

議事課

本会議の開会日時及び会議に付する案件をとりまとめ、衆議院公報をもって各議員や関係者に通知する。また、議場をセットするとともに、次第書^{※2}を作成し、質疑・討論・採決などの議事進行を補佐する。本会議中は、議員の出席状況が定足数を満たしているか点検するほか、採決の際には可否の確認を行う。



※1 国務大臣の演説及びこれに対する質疑

…会期のはじめに両議院の本会議において行われる演説。常会では内閣総理大臣による施政方針演説などの政府四演説、臨時会や特別会では内閣総理大臣による所信演説が行われるのが例とされる。なお、演説の後に、各会派を代表する議員が演説に対する質疑（いわゆる代表質問）を行う。

※2 次第書

…議長や委員長の議事整理の参考に供するため発言要旨を整理したもの。

議事部の一日

三角 啓介

議事部議事課課長補佐
(平成19年入局)

子どもが生まれる前は、妻と共に国内旅行で美しい景色を見て、おいしいものを頂くのが休日の楽しみでしたが、今は娘が大好きな滑り台（スーと呼んでいます）がある公園巡りをしています。

9:00 出勤	本会議に向け、緊張感のある一日が始まる。前日の準備に抜かりがないか改めて確認。
9:10 部長室 打合せ	議事部長室で打合せ。この場で、今後予想される議事の懸念事項に関連する過去の事例を調査するよう指示を受ける。終了後、係のメンバーに打合せの内容を説明し、指示された事例の調べ方を話し合い、調査開始。時には明治・大正の出来事を調べることも。
9:30 議事進行係の 議員と打合せ	この日は議案の緊急上程 ^{*1} の動議の提出を必要とする議事が予定されているため、提出を担当する議事進行係 ^{*2} の議員とその内容を確認。要点を押さえた説明を心がける。
10:30	指示を受けて調査した結果を課長・部長に報告。この間に行われていた事務局幹部の打合せの内容を踏まえ、部長から更に調査すべき項目が示され、すぐに調べて報告。この間、翌日以降の本会議開会に関する会派の動きの情報も入ってくる（情報に応じ事例の調査を行うことも）。
11:00 議院運営委員 理事会	議院運営委員会 ^{*3} 理事会が開会され、結果の報告を待つ。この日は円満に当日と次回の議事を合意。報告を聞いて本会議場に入り、議長が答弁する大臣を指名したり、変則的な事態に対応するための発言メモの一式を事務総長席と事務次長席に置く（メモは必要に応じ事務総長が議長に差し入れ議事進行を補佐）。課に戻ると、議員の秘書から、予定される議事の根拠につき電話で問合せがあり、先例集をめくりながら回答。



12:00 議院運営委員会・ 昼食	議院運営委員会で本会議の議事につき理事会合意のとおり決定がされたとの報告を聞いて昼食。本会議の日は席でお弁当を食べることにしている。本会議中に空腹や満腹で苦しまないよう按配に注意。
13:00 本会議開会	12時50分の予鈴で議場に入る。議員も続々と入場。13時の本鈴が鳴り終わる頃に議長が事務総長と共に入場して開会を宣告。緊急上程の動議が提出される場面では、動議の内容を確認しつつ、議事進行係の立派な声に感銘。議員が演壇で質疑を行うときは、発言時間表示装置により質疑者に残り時間を知らせているが、操作の担当であるため気が抜けない。意見が対立する議論では議場内が沸くことも多い。この日は、大臣の答弁漏れがあり、議長は、先述の発言メモを使い補足のため発言を求める大臣を指名された。
15:00 本会議散会	散会後、係で作成する「議事経過」（本会議の概要記録。衆議院公報・ホームページに掲載）の原稿を確認し、上司の了承を得て公開の作業。また、議場での出来事を整理し、係の中で確認して上司に報告。
16:00 翌日の本会議 の準備等	翌日も本会議は開会予定。別の係が作成する議長の次第書（議事進行原稿）のチェックに参加。並行して、各会派からの質疑通告等を基に、議長の発言メモ、「議事経過」や予定される議事の内容を会派等に伝えるための資料の作成・確認に係で行う。その間も、事務局幹部からの資料提供依頼に対応。ニュースで流れた情報を基に、予想される事態にスムーズに対処できるよう課員に過去の事例の資料を送って情報共有。
18:30 退庁	上司や同僚と協力し、信頼し合いながら無事に仕事を終えられたことに感謝。百三十年余の議会の歴史に恥じない仕事をしたいと決意を新たにしつつ退庁。

*1 議案を委員会で採決した当日の本会議に追加の日程として上程すること。

*2 議事進行に関する動議を提出する役割を担う議員。動議を提出する際は、「議長～！」の独特な言い回しで発言を行う。

*3 議院の運営に関する事項（例えば、本会議開会スケジュール等）、議長の諮問に関する事項、国会法及び衆議院規則に関する事項等について審査・協議を行う常任委員会。

会議運営部門 —委員会を支える—

衆議院には、国会法で定められた常設機関である17の常任委員会のほか、各議院において必要とされたときに設置される特別委員会があります。各委員会は、予算・条約・法律案などの議案や請願などを少人数で専門的に審査し、議長に報告します。また、それぞれ所管する事項について、国政調査^{※1}を行います。

委員会を取り仕切るのは、各委員会の委員長です。そして、その委員長を補佐し、法規・先例に基づく委員会の運営を支えているのが委員部です。

委員部は委員会ごとに担当が分かれ、おおむね4～6人がチームとなって対応しています。委員会の主宰者である委員長のもと、委員会の開会日時や案件等について合意が得られるよう、各理事や政府関係者の間で調整役を務めるほか、委員長や各理事に対して運営に関する法規・先例を説明するなど、委員会が公正・円滑に運営されるよう努めています。

下の写真は、予算委員会の様子です。予算委員会は、常任委員会の中で最も委員数が多い（50人）委員会であり、内閣総理大臣はじめ全ての国務大臣の出席を求めることも多く、国政全般の諸問題について議論されるのが例になっています。

調査室

委員会の調査事務を行う。委員会中は議論のポイントをまとめたり、議員からの急な調査依頼に応える。委員会審査終了後に委員長から議長宛に提出する委員会報告書や本会議における委員長の口頭報告の原案、本会議に配付する議案要旨を作成する。（➡P9）

委員部

委員会の運営事務を行う。開会の日時・委員室及び会議に付する案件について、衆議院公報をもって委員や関係者に通知する。また、委員室をセットするとともに、委員、政府関係者などに連絡し、タイムテーブル^{※2}、次第書を作成する。委員会中は質疑・討論・採決などの議事進行を補佐するほか、委員の出席状況を把握し、採決の際には可否の確認を行う。



※1 国政調査
…法律を作るためや行政を監督するために、各議院がそれぞれ行うことのできる国政についての調査。主に各議院の委員会によって行われている。

※2 タイムテーブル
…委員会当日の会議に付する案件、開会予定時刻、質疑者名・会派・質疑時間帯・持時間等を記載したもの。

委員部の一日

横嶋 慎次

委員部第五課文部科学委員会係長
（平成25年入局）

日本酒好きが高じて、数年前から各地の酒蔵を見学しにしています。同じ酒蔵でも、お米、製法の違いで味わいが異なるのが興味深いですね。

委員会前日

9:00 出勤
先週の理事懇談会^{*1}で、明日、委員会を開会し、法案の質疑を行うことが決まった。当該法案を採決するかについて、まだ結論が出ておらず、与野党間の協議が続いている。

10:30 関係各所訪問
明日の委員会について、事務的な確認や調整のため、委員長や各会派^{*2}の理事等の事務所を訪問する。主として上司の課長補佐（キャップ）が説明するが、その補助として同行する。急な質問に対応できるよう資料等の準備をしておく。



【文部科学委員長を訪問】

12:00 昼食
一段落したので昼食をとる。いつ説明の依頼が来てもいいように、適度に緊張感を持ちつつ、空いた時間に食事を済ませておく。

13:30
ある質疑者から、法案の過去の審査経過等について説明依頼があり、大急ぎで資料を作成。キャップとともに事務所を訪問し、作成した資料に沿って説明する。

17:00
明日の委員会に備え、出来るものから順次書類を作成していく。委員会に誰が答弁者として出席するかは、当日の理事会で協議されるので、あらかじめ質疑者と質問通告を受けている各省庁等との間で調整する必要がある。その調整結果を確認し、資料に反映する。

18:30
部下から一部答弁者の調整がつかないためどう対応したらよいかとの相談があったため、質疑者側の意向を再確認して、整理するように指示した。答弁者関係の調整は、関係者が多く、複雑になることもあり、思わぬ行き違いが発生しないよう、部下の動きに気を配り、対処できるようにしておく。

22:00 退庁
必要な書類が完成し、最終的な確認をする。明日の動きを係内でシミュレーションし、退庁する。朝も早いのですぐに休むことが肝要。

*1 P12 ※5参照

*2 P11 ※3参照

衆議院インターネット審議中継で
委員会の様子を見ることができます！



委員会当日

7:30 出勤
当日の答弁者変更など突発的な問題が発生し得るため、早めに出勤する。本日の委員会の流れや書類を再確認しておく。

8:15
委員室、理事会室にそれぞれ必要な書類等がセットされているか確認する。理事会出席者の案内も行う。

8:50 理事会
理事会では、本日の委員会の議事が確認される中で、与野党間の協議が続いていた法案の採決を行うことが決まり、併せて、次回の委員会の日程も決定した。協議内容や決定事項を正確に把握する。

8:58 委員会開会直前
理事会後、委員室に向かう。定足数や答弁者等の出席者をチェックし、委員会が開会できる状況になっているか速やかに確認する。

委員会中
委員会中、本日の議事や次回の委員会等について、各委員の事務所や関係部署に連絡を入れる。特に、追加で行われることとなった採決は、確実に伝える。また、質疑時間等を管理し、経過を記録する。何かトラブルが起きていないか、答弁等で揉めていないかなど委員室全体に気を配る。



11:45 採決
質疑が終わり、いよいよ採決が行われる。採決は、委員会の意思を決定する議事のため極めて重要。緊張感をもって、賛否を確認し、結果を記録する。

12:00 委員会散会
本日の委員会は終了。事務的に提出する書類作成等のため執務室に戻る。

18:15 退庁
必要書類の提出も終え、区切りの良いところまで事務を終えたら、退庁する。しっかり休んで、次回に備える。

調査部門 ―議論を内容面から支える―

調査局は、衆議院の立法及び国政調査活動に対し、専門的調査機能を発揮して、委員会及び議員の活動を内容面から補佐する役割を担っています。

調査員は、日々、情報収集に励み、国内・海外における現地調査、各種講演会の聴講、局内研修の実施、外部の有識者からの説明聴取等の取組を通じて、多様化・高度化する議員のニーズに対応するために自己研鑽を積んでいます。こうした日々の調査業務の積み重ねにより、最終的に、様々な資料が作成され、議員の立法活動に資するために提供されています。

委員会関係事務

- 議案審査
各調査室は、担当する委員会の議案審査に係る各種資料等を作成する。
・法律案、条約、予算、決算等の審査のため、法律案等の要旨、提出に至った経緯、論点、参考となる資料をまとめた法律案等参考資料
・当該法律等の施行に当たって政府が留意すべき事項について、委員会としての意思を明らかにするための附帯決議の原案
・審査終了の際に委員長が議長に対して提出する報告書の原案
- 国政調査
各委員会において、所管事項についての調査（国政調査）が行われる際の調査活動を補佐する。例えば、委員が政府等に対して質疑をする際に参考となる資料の作成等を行う。
- 請願審査
請願内容に関する調査、資料の収集・作成から審査報告書原案の作成までを担う。



議員からの個別的な調査依頼への対応

- 議員立法に関する依頼
議員が法律案を起案する際に、依頼に応じて、法律案提出に向けた現状の把握や背景についての調査を進め、各種資料の取りまとめを行う。
- 参考資料の作成に関する依頼
議員が本会議や委員会で質疑・討論を行う場合は、最新情報の提供や論点となる項目の説明といった調査依頼に対応する。
- その他
日常的な国政課題に関する多種多様な情報提供の依頼を受けて、文献、新聞記事、専門誌、行政資料といった国内外の各種資料の取りまとめや、政府・関係団体からの情報収集等、多様な調査手法を駆使して対応する。

情報発信

各調査室が収集した所管事項に関する情報、委員会関連・議案関連等の立法に関する情報を、刊行物や衆議院内のイントラネットを通じて提供している。

- ・各委員会所管事項の動向
 - ・通過議案要旨集
 - ・研究論文誌「論究」
 - ・調査レポート
 - ・委員会ニュース
- などといった刊行物を作成している。



▲衆議院ホームページ



▲「論究」表紙

調査局の一日

新井 俊裕

調査局厚生労働調査室調査員
（平成26年入局）

学生の頃からバレーボールを続けており（歴20年以上）、週1～2回社会人チームで活動しています。休日の練習では家族を連れて、子供と体育館で遊んだりしながらリフレッシュしています。

8:50 出勤	9:00から委員会が開会されるが、今日は当番ではないため通常の時間に出勤。開会前の急な調査依頼対応のため、各班 ^{*1} 1人が委員会開会の1時間前に出勤をしている。
9:00 執務室で勤務	委員会審議中継を聴きながら調査業務を行う。委員会当日は、審議中継の聴取又は委員会に陪席し、質疑の要点をまとめ、委員会ニュース ^{*2} を作成している。本日は担当法案の趣旨説明が一般質疑の後に行われるため、当該時刻に委員室に向かう予定。担当法案についての議員への説明に向けた資料作成や旧優生保護法に関する調査報告書の完成に向けたデータ確認などの業務を行う。
12:30 昼食	福祉班の中で、全員が不在とならないよう調整しながら昼食をとる。よほど忙しくない限り1時間しっかり休憩をとる。
15:30 厚生労働委員会陪席	一般質疑が終了し、担当法案の趣旨説明が行われるため、委員室へ向かう。次回の委員会で担当法案の質疑が行われるため、レク依頼など議員からの問合せが増加することが見込まれる。法案によっては、修正案が提出されたり、附帯決議 ^{*3} が付されたりする場合もあるため、改めて気を引き締める。
16:00 議員へのレク	法案審査前や議員の関心事項について、議員から論点整理や概要説明などのレク依頼が入ることがある。今回は担当法案の論点整理のため、同時に審査される別の法案の担当者と共に議員事務所へ向かう。議員は多忙なため、説明時間が限られることも多い。そのため、あらかじめしっかりと準備をし、簡潔に説明できるようにするとともに急な質問にも対応できるように事前に勉強しておくことが重要。今回は、事前に作成していた資料に基づき説明をし、委員会で想定される論点について議論した。実際の委員会において、説明した内容や作成した資料が質疑に用いられることも多くあるため、国会での議論に役立っていると実感する一方、大きな責任を伴うため、日々担当分野の知識の蓄積に努めている。



【左から4人目が筆者】

17:00 レク終了	法案に関するレクが終了。レクで議論のあった内容について、管理職に報告する。今回は追加の調査依頼はなかったが、レクを行う中で議員の関心事項に対応しきれない場合は追加で調査依頼を受けることもある。その際は、上司や管理職と相談し、速やかに対応する。
17:30 執務室で勤務 （旧優生保護法に関する調査報告書の作成業務）	旧優生保護法に関する調査報告書については、衆議院、参議院及び国立国会図書館で協力し3年をかけて作成するという今までに例のないものであり、公表時期が迫っているため、報告書の担当部分の作成やデータ確認作業などを行う。
19:00 退庁	報告書の作成業務について、区切りの良いところまで行い退庁。明日やるべき業務（調査依頼対応、報告書作成業務）の優先順位を整理し、メモを残しておく。

- * 1 厚生労働調査室では担当分野が多岐にわたるため、室員を福祉班、医療・年金班、労働班に分け、分担して業務を行っている。
- * 2 当日の案件や質疑の内容についてまとめたもの。委員会開会日から3日以内に衆議院のホームページに載せ、国民に情報発信している。
- * 3 P12 ※7参照。



国会内だけでなく、国会の外で仕事をすることもあります。写真は厚生労働委員会の長崎県への委員派遣に随行した際に、視察先の概要を委員長に説明している一コマです。



調査局作成の「委員会ニュース」は衆議院HPで公開しています！

職員の声



【議長室にて額賀議長と】

毎朝、挽きたてのコーヒーを飲むことを日課にしています。豆の産地や焙煎度合いによって全く違う味わいになるので、自分好みの、かつコストに優れたブレンドを日々追い求めています。

三権の長を身近で支える

吉川 充

秘書課総務係長（兼）議長公邸連絡第三係長
（平成25年入局）

秘書課と聞くと、国会議員の秘書をイメージされる方も多いかもしれません。ですが私たち秘書課員は、衆議院事務局の職員として、三権の長である衆議院議長をはじめ、副議長、事務総長の活動を全般的に補佐する業務を担っています。

秘書課の業務は、議長等が出席する式典や宮中行事参列に関する事務、院内で行われる行事の取材対応など、多岐にわたります。その中で私は、国内外の賓客を招待して行われるレセプション（夕食会などの歓迎行事）の準備や、議長秘書と事務局内の各部課、時には霞が関の省庁との連絡調整を行う業務を担っています。

議長や副議長、ゲストである賓客にどのようなサービスを提供するのがよいか。政治的立場やこれまでの経歴、時には国籍、宗教も異なる方々が一堂に会する中で、何が最善の選択肢となりうるか。レセプションの開催に当たっては、上司や同僚と議論を重ね、日程調整から食事のメニューに至るまで、入念に準備を進めます。当日、現場で急な対応を求められる場面もしばしばありますが、課員一丸となっておもてなしの心を体現し、一から創り上げたレセプションを無事成し遂げた際に得られる達成感はひとしおです。三権の長を身近で支える、そのために上司・部下分け隔てなく一致団結できる風通しのいい雰囲気があるのも、秘書課、ひいては衆議院事務局の魅力だと思います。

三権の長をお支える責任感と政治の中核で働く緊張感。この2つはなかなか体験できるのではなく、そこから得られるやりがいとは特別なものだと感じています。衆議院事務局を皆さんの選択肢の一つとしていただければ幸いです。



旅先で食べたジビエ料理があまりにもおいしくて、ジビエ熱が高まっています。いちおしは鹿肉です。

論戦の現場で

佐野 倫子

委員部第三課課長補佐（経済産業委員会担当）
（平成16年入局）

国会の委員会の様子は、ニュース映像等でご覧になったことがある方も多いかもしれません。委員会を開会するかどうかは、与野党の理事の協議を踏まえ、委員長が決定します。その際、日時、議題、議事の進め方、時間配分といった細部も含めて与野党間で合意ができていなければ、スムーズに開会できません。委員部は、与野党双方とやり取りし、それぞれが判断に必要な情報を提供するなどして、こうした協議の進展をサポートします。この間、政府や各会派等の関係者とのコミュニケーションも欠かせません。私が委員部で勤務するのは新人時代と現在で二度目ですが、資料作成や連絡業務を主に担っていた若手職員の頃とは立場が変わり、委員長や理事等に直接説明したり、関係者と調整したりする役割が中心になりました。どのタイミングで、何を、どう説明すればいいか試行錯誤の連続で、調整の末、協議がまとまったときは、少しほっとできる瞬間です。その後、気持ちを切り替え、協議結果に沿った議事が行われるよう準備を整え、委員会当日は委員長の議事運営を補佐します。

委員会の現場で初めて仕事をした時のことを思い返すと、当時の緊張感がよみがえります。経験を重ねたおかげか、今では、多少図太くなったかもしれませんが、それでも委員会は毎回決して同じように進まず、気は抜けません。委員会が無事に散会したときの、安堵感と達成感が入り混じったような感覚は、今も変わりません。熱い論戦を目前にしながら業務に当たるのは独特の経験で、現場でしか感じられない空気があると思います。少しでも、そうした現場に立ち合いたいと関心を持っていただけなら、ためらわずに衆議院事務局の門をたたいてください。

立法の過程を将来に遺す

森上 怜

議事部議案課送付奏上係長
（平成24年入局）

議事部議案課は、国会に提出される各種の議案（法律案や予算等）について、その受理、委員会への付託、修正、送付など、議案の一連の審議過程に関する事務を所管しており、私はその中でも議案審議の出口に当たる送付・奏上業務を担当しています。送付とは、本会議で可決された議案を参議院に送り届けること、奏上とは、両議院で可決し成立した法律の公布を、内閣を経由して天皇陛下に申し上げのことをいいます。

送付は、本会議で議案が可決された後、直ちに行っています。議決の結果を正確に記し、議長の公印を付した公文書とともに、議案の原本一式を参議院に持ち込みますが、この手続をもって本院の審議を終え、議案を引き継ぐこととなるので、特に国民的関心が高い重要法案の送付等に向かう時は、とても気が引き締まります。また、これらの手続は国会法、衆議院規則などの法規及び先例に則って厳格に行われ、それに用いられた書類は全て議決原本として院に正式に保存されることにより、立法の適正な手続を将来に伝えています。

このように、議案課をはじめとした会議運営部門においては、国会の立法過程における様々な場面において、実務に携わることとなるので、立法機関で働いていることや、やりがいを特に実感していただくことができるのではないのでしょうか。

また、国会では日々たくさんの議案が審議されているので、仕事の忙しい時期が続くこともありますが、その中でも私は子供の送迎のための育児制度を活用するなど、職場の理解を得ながら、子供との時間を確保した働き方を実践できています。このように充実した職業生活と家庭生活の両立をしやすいことも、衆議院事務局の魅力の一つだと思います。



最近の趣味は、キャンプに行くことです。休暇をとり、湖畔や森に行き、家族や友人とのんびりと楽しんでいます。朝起きて自然の中で飲むコーヒーは、なんでこんなに美味しいんだろうと不思議に思うほどです。

誇りとやりがいを持てる仕事

君野 祥子

調査局文部科学調査室調査員
（平成20年入局）

私が所属する文部科学調査室では、主に文部科学委員会に提出される法案に関する資料作成や、議員からの調査依頼への対応を行っています。また、所管事項に関係する話題について、議員に対する情報提供を主眼とした資料を作成しているほか、委員会での質疑の内容をまとめた「委員会ニュース」等の作成も行っています。

文部科学調査室は幅広い分野を所管しており、教育、文化、スポーツ、科学など多岐にわたります。議員からの調査依頼も、「今日のお昼までに〇〇関係の資料を集めて説明しに来て!」といった迅速性・即応力を求められるものから、「●●にかかる教育費の試算をしてほしい」といった専門性・緻密さが求められるものまで様々です（どれも正確さが第一であることは言うまでもありません）。そのため、基本的・専門的な知識の習得はもとより、日頃から様々な文献・新聞・ウェブサイトを目を通したり、政府の審議会を傍聴したり、有識者を招いて勉強会を行うなどして幅広く情報や資料を収集し、整理しておく必要があります。また、それを議員等に対して分かりやすく、論理的に説明する力も求められます。プレッシャーもありますが、議員に提供した情報が委員会での議論に反映されるなど、成果が目に見える形で表れたときには充実感もあり、国会での議論を裏で支えているという誇りとやりがいを持って仕事に取り組んでいます。

また、衆議院事務局は、ワークライフバランスの面でも非常に魅力的な職場です。私は現在2人の育児中ですが、様々な両立支援制度を駆使するのみならず、周りの方々のあたたかい理解・協力のおかげで責任ある仕事ができることに、日々感謝しています。



20年来の推しのバンドの大阪遠征に子供も一緒に参戦してくれるようになり、とても感慨深いです!! 家族の誕生日に合わせて行っている近場旅行が、慌ただしい日々の中の楽しみものの1つになっています。

職員の声



休日は、息抜きにゲームをしていることが多いです。様々なジャンルをプレイしていますが、特に好きなジャンルはRPGです。目に見えて成長を実感出来るのは、仕事でもゲームでも嬉しいものです。

資産公開制度から触れる国会

川原 陵聖

庶務部議員課
(平成30年入局)

新聞やネットニュースで、国会議員の資産公開に関する記事を見かけたことがある方も多くかもしれません。議員課資産公開係では、「政治倫理の確立のための国会議員の資産等の公開等に関する法律」(いわゆる資産公開法)に基づいて提出された資産等報告書等の受付をはじめ、資産公開に関する業務全般を担っています。

報告書の受付業務では、提出された報告書に記載漏れはないか等、形式的な不備の有無を確認しています。特段問題がなければ、報告書を公開開始日までに順番に並べ替える等、閲覧可能な状態にしています。衆議院議員は450人以上いるため、並べると量があり壮観です。地味な作業と思われるかもしれませんが、報告書の公開開始日には報道でも大きく取り上げられるため、意外と目立つ業務です。

報告書の閲覧希望者の対応も資産公開系の業務の一つです。報告書は誰でも閲覧可能とされており、日々閲覧希望者がいらっしやいます。特に、新たに報告書が公開されると、報道関係者だけでなく、一般の方の閲覧希望も増えるため、資産公開に対する世間の注目度の高さを感じます。

新聞等で資産公開に関する記事が掲載されると、自分は国会という場所で働いているんだと実感出来ますし、やりがいを感じます。資産公開制度は、一般の方でも政治、国会に触れることが出来る良い機会だと思っています。資産公開制度に限らず、政治の世界に少しでも興味がありましたら、衆議院事務局の受験を考えてみてください。皆さんと一緒に仕事出来る日を楽しみにしています。

事務局職員を陰で支える

有松 隆志

管理部厚生課短期経理係長
(平成16年入局)

厚生課は各種助成、医療、宿舍、団体保険、貸付、年金など職員及びその家族の福利厚生を所管している部署です。その中で、私が担当している短期係は、民間でいうところの健康保険にあたる業務を担っています。

具体的には、職員及びその家族が医療機関を受診した際の共済組合負担分の支払いや、医療機関での窓口負担額を軽減するための限度額適用認定証の発行、育児休業中の方への経済的援助として育児休業手当金の支給、病気や怪我により働くことができない方への補助として傷病手当金の支給など様々な給付に関する事務を行っています。健康保険は制度が複雑なため、手当金等の支給に当たっては常に法規を確認しながら進めなければなりません。加えて制度改革があった場合は、その都度係内で解釈等が間違っていないかを確認するとともに、必要に応じて所管の財務省へ照会し、認識の共有に努めています。

また、これらの手当金等を支給するための財源となっているのが、職員の給与から天引きされる掛金(保険料)です。毎年8月には来年度の掛金率(保険料率)を検討するための「収支見込」という業務があります。収入、支出及び積立金の推移を勘案しつつ率を決定しますが、掛金率の変更は職員の生活に直結するため、非常に重要な業務となっており、緊張感を持って取り組んでいます。

最後になりますが、このパンフレットを読んだ方に少しでも衆議院事務局の仕事に興味をもっていただけたら幸いです。



趣味は旅行で、国内・国外問わずに連休があれば出かけています。ここ2、3年はコロナ禍のため、なかなか行けませんが、お酒を飲みながら次はどこへ行こうかと旅行の計画を立てている時が至福のひとつです。

記録部の一日

米倉 美寿々

記録部第二課
(平成28年入局)

新しい趣味として着物を始めました。週末は着物を着てお出かけするのを楽しみにしています。季節やTPOに合わせた着物の知識も深めつつ、充実した着物ライフを送っています。



8:50 出勤	自分の担当会議、時間、資料等を確認しておく。
9:00 調査	この日は自分の担当時間まで時間があつたので、原稿作成をしている先輩の作業を手伝う。原稿中に出てきた固有名詞の表記、専門用語等について調査する。
10:50 原稿作成	最初の担当は10:50~10:55の総務委員会。発言者や不規則発言等の委員会情報を記録した臨場経過表を臨場者*から受け取り、音声自動認識システムで出力された文字データを音声、映像をもとに修正していく。一次原稿を印刷し、調査、音声照合を行い、必要があれば校閲にも相談しながら更に修正作業をする。 *経験を積んだ原稿作成者が務める。委員会に出務し、現場でしか把握できない情報を記録する。
12:00 昼食	切りのいいところで食事。
13:00 原稿作成	原稿作成を再開し、最終確認して原稿を提出。
14:10 本会議場へ	2回目は14:20~14:25の本会議。速記者と一緒に本会議場の速記席に座る。発言者や場内の様子、発言をメモし、現場の状況をしっかりと把握する。
14:30 原稿作成	議場から戻り次第、本会議の原稿作成をする。議場でのメモや映像を確認しつつ、先例も参照しながら注意して文字データを修正していく。原稿提出後、最後の担当である15:35~15:40の総務委員会の原稿作成に取りかかる。
17:45 業務終了	最後の原稿を提出して、業務終了。

職員の声

国会審議に関する新聞記事が掲載されたり、予算委員会がテレビ中継されたりしていることがありますが、皆さんがニュースなどで目にされる国会の様子はほんの一部です。実際は、近年の通常国会だけでも、衆議院では1000時間以上も本会議や委員会が開かれています。法律の改正、毎年度の国家予算、市町村単位の話題や世界情勢など、様々な議論が飛び交う本会議や委員会の議事を全て記録し、会議録を作成、発行することが私たち記録部の仕事です。

以前は、速記技術を習得した速記者のみが会議録を作成していましたが、現在は、録音した音声データを文字データに変換する音声自動認識システムが導入され、事務職で採用された職員でも会議録の作成に携わるようになりました。記録部に配属されると、文字データの誤りなどを修正して会議録へと完成させるための研修を受け、先輩と2人1組で実務を行います。このように、1人で原稿作成ができるようになるまでに経験を積むので、私のような速記技術を持たない職員でも会議録作成に従事できるようになります。

記録部に配属されてから数年がたちますが、今でも会議録と向き合うたびに新しい知識が増え、研さんに励む毎日です。記録部での仕事の至る所で、第1回帝国議会から130年以上にわたって会議録が作成されてきたという歴史の重要性和誇りを感じます。

過去と未来の歴史をつないでいく記録部の仕事に興味を持っていただけたら幸いです。



国際部 の 一日

末岡 亜紀子

国際部国際会議課課長補佐
(平成13年入局)

もともと「超」がつくほどのインドア派でしたが、健康のために始めたテニスにハマリ、今では週末に暇さえあればテニスに出かけるほどに。なかなか上達しませんが、良い気分転換になっています。

私が所属する国際会議課は、衆議院が公式に開催または参加する国際会議を所管しており、参加する議員を事務の面からサポートする役割を担っています。私が担当する会議の一つに、日本国会と欧州議会との間で40年以上の長きにわたり開催されている日本・EU議員会議があります。以下、令和5年7月に「第41回日本・EU議員会議」のために欧州議会のあるストラスブール（フランス）に出張した際の様子をご紹介します。

会議 1 日目	
8:00 業務開始	日本国会代表团は、会議に備えた最終的な勉強会のため、現地総領事館へ。勉強会の進行を見守りつつ、欧州議会に先着した同僚と連絡を取り合い、会場の準備状況等を確認する。
9:30 欧州議会要人との会談	日本国会代表团を欧州議会に案内。期間中は、会議以外にも議会や政府の要人との会談を行うことが多く、この日の午前中は、欧州議会の外務委員長と国際貿易委員長との2件の会談が行われた。最近の国際情勢や共通の課題について率直な意見交換が行われ、有意義な会談となる。会談中は双方の発言内容を注意深く聞き、メモを取る。
11:45 欧州議会 本会議の傍聴	ちょうど欧州議会の本会議が開会中だったため、本会議場において傍聴。議席の欧州議員から拍手で歓迎を受ける。議員の近くに通訳者を配置するなど、議員が内容を把握できるようにする。
13:40 昼食会	日本国会代表团を歓迎して、欧州議会副議長主催による昼食会が行われる予定であったが、本会議が長引いて欧州議会議員らの到着が遅れ、開始が大幅に遅れることに。欧州議会のスタッフと協議してスケジュールを変更し、セッションの準備のため会場に向かう。



【会議の合間に両団長と】



15:30
第一セッション

会議のメインイベントであるセッションがスタート。1日目は、日欧双方の政治・経済・社会情勢やウクライナ情勢などが議題。参加議員による活発な議論が行われる。会議中は、議員の出席状況や、予定通りに日本国会代表团が発言しているかなどを確認しながら、進行状況の把握に努める。



【第41回日本・EU議員会議の様子（左下が筆者）】

19:00
夕食会

欧州議会の対日交流議員団団長主催による夕食会は、日欧の議員同士の関係を円滑にするための重要な行事である。配席や通訳の配置の確認を行う。セッションでの真剣な表情が緩み、リラックスした雰囲気での交流が行われている様子を見て一安心。宿舎に到着後、議員と翌日の日程の確認をして業務終了。

会議 2 日目

9:00
第二セッション

2日目のセッションでは、AIや環境・エネルギー問題といった日欧間の共通の課題における協力関係などについて議論。この日は、日本の代表団の団長が議長役を務めるため、円滑な議事進行が行われるよう細心の注意を払いながらサポートを行う。最後に、日欧両団長による共同声明への署名式が行われ、会議は無事に終了。同僚たちと達成感と安堵感を共有しつつ、日本国会代表团とともに欧州議会を後にする。

職員の声

各国との交流を支える魅力

松野 由布子

国際部渉外課米州・中東・アフリカ第二係長
(平成26年入局)



国際部での業務を通し、日本とは異なる各国の生活・文化を知るうちに、世界各国の料理にも興味を持つようになりました。今では、これまで食べたことのないジャンルの料理を食べに出かけるのも楽しみの1つです。

私が所属する渉外課では、各国の大統領や議会の議長といった要人や議会関係者の衆議院訪問に関する業務を行っています。

主な業務としては、衆議院議長との会談や、国家元首クラスによる国会演説、議会間交流促進を目的に、衆議院の賓客として外国議長一行を日本に招待するプログラムがあります。

このプログラムでは、衆議院議長との会談及び議長主催夕食会のほか、参議院議長との会談、さらに天皇陛下によるご引見や内閣総理大臣をはじめとする要人との面会の調整から、滞在中の宿泊先、通訳、移動手段までを手配します。また、日本への理解を深めるために、先進企業や研究機関の視察や、茶道といった日本文化体験、そして京都や広島などの地方視察のアレンジを行います。準備にあたり、招待する国の宗教や習慣にも配慮するなど調整すべき事項は多岐にわたります。より充実した日程になるよう工夫できる場所はないが、全体像を常にイメージしながら細かい事柄にも注意を払って作業を進めます。渉外課員は準備だけでなく、全日程に同行もします。急遽日程が変更になり、臨機応変な対応を求められることもあります。外国議長一行から直接感謝のお言葉をいただいたときは、やりがいを感じる瞬間でもあります。

業務のなかで英語を使う場面が多々あります。そう聞いて心配に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、衆議院事務局では語学研修のサポートが充実しており、不安なく業務に取り組む環境が整っています。この点も、この職場の魅力だと言えます。

衆議院では、様々な国との交流があります。各国との絆を深めていく議会や議員間の外交を支える国際部の業務に、ぜひ興味を持っていただけたら幸いです。

一衆議院事務局の国際ネットワーク構築一

衆議院ビジターセンターと新憲政記念館からの情報発信

衆議院事務局は「議会ビジターセンター国際フォーラム」のメンバーです。同フォーラムは、各国の議会事務局が国民に向け実施している情報発信、国会参観、体験学習などの実例や経験を共有し、自国での取組を深化させることを目的とした国際会議です。衆議院は第1回フォーラム（2017年、米国）より毎年参加し、各国メンバーとのネットワークを構築してきました。近年では、イスラエル国（2022年）、北マケドニア共和国（2023年）での会議に職員を派遣しています。

この会議で得た先進事例も踏まえ、現在、憲政記念館、庶務部広報課、警務部が中心となり、参観、展示、教育、情報提供を通じて国民と国会をつなぐ「衆議院ビジターセンター」の設立準備を進めています。



第6回議会ビジターセンター国際フォーラム（北マケドニア）



記名投票の体験学習（現憲政記念館にて）

具体的には、憲政記念館において、来館者に実際の本会議場を再現した議場体験コーナーでの内閣総理大臣による施政方針演説や、重要議案の採決で用いられる記名投票を体験いただいております。これは、子どもたちにとっても国会をより身近に感じるきっかけとなり、学校関係者から好評を博しております。

憲政記念館は令和11年度末に新館の開館が予定されています。人々が議会制民主主義への理解を深め主権者としての知見を涵養する『議会へのトビラ』となることをめざし、国内外への情報発信が始まっています。



数百年の時を経て、現代にその姿をとどめている建築物を見るのが趣味です。特に城郭が好きで、旅行に行くと必ず、その土地の城郭を見に行っています。今の野望は、現存天守を制覇することです。

憲法論議を支える

北見 龍之介

憲法審査会事務局調査第三係長
(平成27年入局)

憲法審査会は、日本国憲法や憲法に密接に関連する基本法制に関する調査を行うとともに、憲法改正原案や国民投票法の審査を行う機関です。他の委員会であれば、調査室と委員部という別の部署で仕事をしているのですが、私が所属する憲法審査会事務局では、調査担当と運営担当が同じ部屋に同居して協力し合いながら、国会での憲法論議をサポートしています。

私は、その中でも調査を担当しています。議員などからの依頼に応じて文献を調べたり、参考となる資料を作成したりします。国の最高法規である憲法に関する調査のテーマは多岐にわたり、その一例を挙げると、最近、世間の注目を浴びている生成AIをはじめとする最新の技術に関わるテーマを扱うこともあります。そのため、憲法に限らず様々なことに関心を持ち、研鑽を積む必要性を日々感じています。時には、ドイツやフランスなど、海外の制度について調べることもあり、語学が得意な方にとっても活躍の場が多いのではないかと思います。

また、憲法審査会事務局には、議員立法の専門家集団である衆議院法制局からの出向者もあり、仕事をする上で刺激を受けることも多いです。

安全保障や民主主義など、国の根幹に関わるテーマについて議論する憲法論議に接する仕事は、プレッシャーがかかることもありますが、他では経験できないやりがいのあるものだと感じています。

国会開会中は、業務が立て込み、締切に追われることもありますが、閉会中は比較的休暇が取得しやすく、メリハリをつけて仕事をできているのではないかと思います。

国会と情報通信技術を結ぶ架け橋

大田原 渉

庶務部情報基盤整備室情報化企画係長
(平成24年入局)

技術系

国会と情報通信技術、何となく結びつかないという印象をお持ちの方は少なくないのではないのでしょうか。国会が持つ歴史的慣習を重んじる面は残しつつも、その裏側では、他の企業と遜色がないぐらいに、日々の業務はデジタル化されています。

その立役者となっているのが情報基盤整備室です。情報基盤整備室では、業務で使用するパソコンやネットワークなどの環境整備や、情報セキュリティ対策の推進や啓発等を通して、衆議院で働く議員・秘書・職員が、業務を効率的かつセキュアに遂行できるよう、情報通信技術の観点から、様々なサポートを行っています。

例えば衆議院には、本会議や委員会などの情報を登録し、様々な業務に利活用できるシステムが整備されています。私が所属する情報化推進係では、このシステムが意図しないサービス停止等をしないよう、保守業者と連携し、時にはサーバ室に自ら赴いたりしながら必要な調整を行っています。

また、情報セキュリティポリシーという、職員がパソコンなどを使用して情報を取り扱う際の基準を整備したり、議員・秘書を対象にITリテラシー研修を開催して、業務を効率的に行うための方法や、存在するリスクとその回避策などを学ぶ機会を用意したりするなど、業務のデジタル化を下支えするような取組を多方面に展開しています。

ここで紹介したのはほんの一例です。個々の仕事は実に様々なものがあり、初めは戸惑うかもしれませんが、どの仕事も情報通信技術で衆議院を支えるという最終的な目的は同じです。熱意ある皆さんと仕事ができる日を楽しみにしています。



学生時代からサッカー観戦は趣味の一つでしたが、2022年のW杯以降、週末に家族でサッカー観戦に出掛ける機会が増えました。お酒も好きなので、観戦しながら飲むビールはスタジアムでの楽しみの一つです。

後世に引き継ぐ歴史的な建物

駒形 雄太

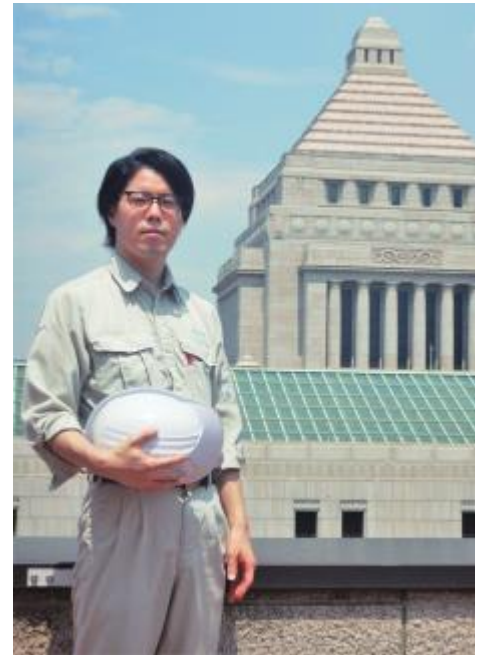
庶務部営繕課建築設計第四係長
(平成25年入局)

技術系

営繕課には技術系職員が多数在籍しており、その領域は、意匠・構造を扱う建築と空調・衛生・昇降機を扱う機械設備に大別されます。いずれの分野においても、既存施設の修繕、改修を主体とした設計を行うほか、入札手続きから工事監理・検査までの一連の業務に携わります。完成後には、建築物及び附帯設備（エレベーター、空調、上下水道など）の点検や運転監視といった維持管理も行っています。これらの業務においては、電気施設課とも密接に関わり合いながら、建築・機械・電気が一体となり、施設整備を通じて円滑な議会運営を支えています。

衆議院には国会議事堂をはじめとした国会関連施設が20棟以上あります。これらの修繕や改修に当たっては、大半が自らCADを用いて設計図を作成し、発注仕様を決定しています。新たに建物を建設することはあまり多くありませんが、歴史的な建物には技巧を凝らした意匠や設えが数多く存在し、現代の建物ではほとんど見ることのない技術や工法に触れることができるのは、当院の特徴的なところだと思います。

特に国会議事堂は、当時の日本における技術の粋を集めて建設され、国内外にその高い技術力を示すものとなりました。それから86年にわたり、事務局職員たちの手で今日までその風格を保ってきました。これらの貴重な建物をしっかりと後世に引き継ぐことは我々の使命だと思っています。そのためには最新の技術や知見も同時に学ばなければなりませんし、何より先代からのノウハウを引き継いでくれる有望な人材を探さなければなりません。ぜひ皆さんにもその一翼を担っていただきたいと思っています。



保育園に通い始めた娘の日々成長する姿に感動しています。育児は大変な事もありますが、子どもの楽しそうな笑顔には癒されます。時間があれば建築好きの仲間と建物探訪をしたり、妻とスポーツ観戦をしたりして楽しんでいます。

国会議事堂を支える技術

大谷 哲也

庶務部電気施設課変電設備係長
(平成26年入局)

技術系

衆議院と聞くと、連日報道されている本会議や委員会の審議が想像されると思います。衆議院事務局は、衆議院を支えるため、会議運営、調査、記録、警務など様々な分野の職員が仕事を行っている機関です。

その中で私が所属しているのが電気施設課です。電気施設課では、国会議事堂をはじめとする建物で、電気設備を利用する方々が安心して仕事ができるよう、設備の点検や保守を行い、必要に応じて老朽化した設備の改修や故障した設備の修繕などを行っています。

対象となる設備は照明やコンセント、電話、テレビなど、普段の生活で皆が使用している設備から、火災報知器や防犯設備などの建物を守る設備、珍しいところでは、本会議や委員会のテレビ中継を行うカメラや音響設備まで、数多くあります。

衆議院事務局の技術職を検討されている方の中には、電気設備について未経験であることを心配されている方もいるかもしれません。私も採用当初は電気設備の素人と言っても過言ではありませんでしたが、諸先輩の指導のもとで様々な業務をこなせるようになりました。まだまだ勉強することは沢山ありますので、これからも技術を向上させ、職務に励んでいきたいと思っています。

国会運営の日々を支える責任は重大ですが、とてもやりがい溢れる仕事であることは間違いありません。やる気・熱意・向上心に満ちた皆さんと、一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。衆議院で、きっと大きな力を発揮する事ができるはずですよ。

いろいろな場所で活躍する衆議院事務局職員

衆議院事務局では、職員の視野を広げる目的で、ほぼ全ての省庁との人事交流を行っています。入局3年目から10年目程度の職員が対象となり、出向期間は2～3年間です。また、外務省との人事交流の一環として、海外の在外公館で働く機会もあります。



旅行が好きで、休日は積極的に英国各地に足を運んでいます。最近は古城巡りにはまっており、ヘンリー何世？エドワード何世？と人名にやや混乱しつつ、英国の歴史に触れています。

異国から日本を見つめ直す

樋口 周一

在英国日本国大使館一等書記官
(平成25年入局)

ロンドンの日本大使館にて、英国の政治情勢の調査や議会間交流に関する業務を担当しています。本稿執筆の令和5年9月時点で、野党労働党の支持率は与党保守党を20ポイント程度リードしています。それだけ聞けば政権交代は確定的と思われるかもしれませんが、政党関係者や有識者に意見を聞くと、翌年に想定されている次期総選挙の見通しについての見解は必ずしも一致していません。また、一般的に英国は二大政党制の国として認識されていますが、実は地域毎に有力な政党が異なり、単純な二政党間の争いが行われているわけでもありません。地域によって争点も変わり得るため、各地域のルーツや特色を踏まえた選挙情勢の分析を行う必要があり、私は今その奥深さに惹きつけられています。

衆議院事務局の職場としての魅力の一つは、仕事を通じて社会を知り、社会に生きる人間として成長し続けられることだと考えています。部署によって関わり方・貢献の仕方は様々ですが、コロナ禍での緊急事態宣言のように国民生活に直結する決断や、外国人労働者の受入れのように国の将来の在り方に大きく影響する選択が、身近な場所で議論されます。社会を知り、視野を広げるという意味では、大使館への出向はその最たる機会です。異国の地で暮らしているだけで日々新たな発見がありますし、仕事を通じて日本社会を見つめ直す契機にもなっています。

このパンフレットを手に取っているような、政治や社会に多少なりとも興味がある方であれば、衆議院事務局は間違いなく退屈せずに自分を高められる職場です。皆さんの入局をお待ちしています！

霞が関から国会を見つめて

佐伯 桃菜

厚生労働省労働基準局労働条件政策課
(令和3年入局)

令和5年7月から厚生労働省に出向しています。配属先の労働基準局労働条件政策課では、主に労働時間、休息等の労働条件や労働者の保護などに関する政策を扱っており、その中で私は課の窓口として、国会対応などに際し、関係部署との連絡調整を行っています。加えて、分科会などの各種会議の運営や労働法教育に関する業務なども担当しています。

国会議員を含め、厚生労働省の内外から寄せられる依頼事項について、その内容に応じて適切かつ迅速に担当部署と調整するためには、労働行政に関する知識はもちろん、どの部署がどのような業務を担当しているのかをしっかりと把握している必要があります。聞き慣れない専門用語や、部署の数の多さに戸惑うこともありますが、新しい経験は刺激的で、忙しくも充実した毎日です。

私は、厚生労働省に出向して、立法府と行政府の深い関係性や国会が持つ影響力を改めて実感しています。省庁が何か行動を起こすためには予算や法律が不可欠ですが、それらは国会を通過しなければ効力は生じません。また、刻一刻と変化する国会情勢は省庁の業務にも大きく影響します。今回の出向で、行政側の職員として、国会職員とは異なる立場から、立法府と行政府の関わりを実際に見ることができ、非常に学ぶところが大きいと感じています。

衆議院事務局には、省庁への出向をはじめ、自己の知識・経験を深める多様な機会があります。このパンフレットを手にされた皆様と、衆議院で一緒にお仕事ができる日を楽しみにしています。



休日の楽しみはカフェにランチやスイーツを食べに行くことです。おしゃれなカフェでゆったり過ごす時間は、非日常感もあり至福の時です。散歩も好きなので、カフェに行くまでの道のりも楽しみの一つです。

キャリアパス — 職員の歩み —

Case1 総合職（大卒程度）



小学生時代にファミコンの「三国志」にハマって以来、歴史とゲームを愛好しています。最近では、息子と大河ドラマを観て歴史について語り合う将来を夢見て、一緒に歴史ゲームを楽しんでいます。

吉田 一路

庶務部人事課長

平成12年4月	衆議院事務局採用
	調査局地方行政調査室
(平成13年1月～)	調査局総務調査室
平成15年8月	憲法調査会事務局
平成17年9月	委員部各課
平成19年1月	国際部渉外課
平成19年7月	庶務部人事課付
平成20年7月	外務省在中国日本国大使館へ出向
平成22年8月	庶務部人事課
平成24年10月	委員部各課
令和元年7月	委員部第六課調整主幹
令和2年7月	庶務部会計課監査主幹
令和3年1月	庶務部文書課総務主幹 (兼)庶務部文書課新型コロナウイルス感染症対策室長
令和3年7月	委員部総務課長
令和4年1月	委員部調査課長 (兼)委員部第六課長(兼)委員部第七課長
令和5年1月	委員部調査課長
令和5年7月	庶務部人事課長

入局

就職氷河期真っ只中の平成12年に衆議院事務局に入局。きっかけは大学の就活室に置いてあった採用パンフレット。入局直後、小淵総理緊急入院のニュースに騒然となる職場を見て、永田町の世界に身を置いたことを実感する。

調査局地方行政調査室（現総務調査室）

最初の配属先は地方行政調査室。学生時代全く触れたことのない地方行政の担当に。先輩調査員の指導を受けながら専門書や関連資料を読み込む日々。調査室では、新人もベテランも同じ「調査員」として資料作成や様々な調査依頼に対応する。議員や秘書はその道の専門家である調査員として接してくるため、「早く一人前にならないと」と焦りを感じながら過ごす。

憲法調査会事務局（現憲法審査会事務局）

入局から3年、初の異動先は憲法調査会事務局。調査業務を担当。在任中は「衆憲資」と呼ばれる参考資料の作成と最終報告書の取りまとめ作業に従事。法律の専門家である法制局出身の同僚に囲まれ、法的思考力や論理的思考力の重要性を学ぶ。700頁余りある最終報告書が完成した際は感慨ひとしお。

委員部（3番手～2番手）

平成17年夏、委員部に異動。初の運営部門。慣れないライン型業務に戸惑いつつも、議員が論戦を交わす最前線での勤務に、緊張感と高揚感が交錯する新人時代の感覚を思い出す。3番手時代は次第書作成や答弁者調整等の業務に従事。当時の次第書は手書きで作成しており、悪筆な私はとても苦労した。先輩からは「字は心。相手に伝えたいという気持ちがあれば、きちんと読んでもらえる」と励まされた（？）

国際部渉外課

在京大使館のスタッフと英語でやり取りする機会が多く、語学力の必要性を痛感。スリランカ議会議長訪日時に地方視察に随行し、普段非公開の場所を見聞する貴重な機会を得る。

庶務部人事課付（外務省中国課）

平成19年夏から1年間、人事課に籍を置いたまま、実際は外務省中国課で勤務し、日中交流を担当。日中国交正常化35周年の節目の年で業務は多忙を極めた。タクシー帰りが当たり前で、超過勤務手当が本給を超えるという経験も。衆議院事務局の職場環境がいかに恵まれていたか痛感する。

出向（外務省在中国日本国大使館）

平成20年夏から2年間、北京の日本国大使館に出向。政治部に配属され日中政治を担当。事務局初の出向ポストで前任がおらず、自分の居場所を一から作り上げる苦労があった。在任中、北京五輪など国際行事が多くあり、訪中する政治家のアテンドを多数行う。初の海外生活に外交官としての業務。これまでの常識が通用しない場面も多く、自身の価値観を見つめ直す機会にも。

庶務部人事課

帰国後、人事課法規係に配属。課長補佐として初めて係の責任者である「キャップ」になる。法規係では職員法規と職員倫理を主に担当。人事当局側として臨んだ組合交渉、公務員倫理の研修講師、職員法規改正の条文作成など初めて尽くしの業務で新鮮だった。キャップになり組織を代表して外部とやり取りする機会が増え、職責の重みを自覚するように。

委員部（キャップ）

二度目の委員部勤務。今回はキャップとして委員会運営に責任を負う立場。与野党が対峙する委員会は予定調和の議事ばかりではない。予期せぬ事態を想定し事前に備える危機察知能力と事態が発生した場合に冷静に対処する危機管理能力の双方が求められ、会議中は常に緊張を強いられる。だが、難しい委員会を無事やり終えた時に感じる心地よい疲労感は何ものにも代え難い。多くの委員会を担当したが、TPP法案やIR法案など大型法案が集中した内閣委員会時代、総理以下全閣僚が出席する予算委員会時代が印象深い。

管理職昇任

令和元年夏、管理職に昇任。プレイヤーからマネージャーへと立場が変化していく中で、自部署の業務完遂のために果たすべき役割を模索し実践する日々。未経験部署での勤務や新設部署の立ち上げなど挑戦がいのある仕事にも恵まれ、まだまだ成長させてもらっている。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局と聞いて、国会という狭い世界の組織というイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、私のキャリアパスからも分かるように、実際には調査、運営、渉外など多彩な業務、永田町、霞が関、海外と様々なフィールドでの勤務と非常に多様性に富んだ職場です。仕事に求めるものは人それぞれ異なりますが、衆議院事務局にはその多くの思いに応えられる懐の深さがあります。「国会で働くのも面白そう」、そんな皆さんの志望をお待ちしています。

キャリアパス —職員の歩み—

Case2 一般職（大卒程度）



深谷 陵子

経済産業調査室首席調査員

平成5年4月	衆議院事務局採用 庶務部人事課
平成6年12月	渉外部国際会議課 (平成9年7月～ 国際部国際会議課)
平成10年7月	調査局予算調査室
平成13年4月	環境省へ出向
平成15年7月	庶務部人事課付
平成15年8月	議事部議案課
平成17年9月	議事部議事課
平成21年8月	調査局決算行政監視調査室
令和元年7月	調査局予算調査室
令和3年7月	調査局経済産業調査室次席調査員
令和6年7月	調査局経済産業調査室首席調査員

劇団四季のミュージカルを観に行くのが大好きです。特にお気に入り「ライオンキング」でこれまでに5回は行っています。ストーリーは分かっているはずなのに、毎回同じところで感動して涙しています。

調査局

早いもので衆議院事務局職員となり30年が経過しましたが、その半分以上は調査業務に携わっており、予算、決算行政監視、経済産業の3調査室を経験してきました。現在の所属である経済産業調査室の所管は中小企業政策、通商貿易・経済協力、エネルギー政策等多岐にわたっており、国会の開会・閉会を問わず、日常的に議員から多種多様な調査依頼が舞い込みます。近年、複数の省庁に広がる政策が多いため、依頼内容についても他の調査室の所管と重なることから、他室に協力を求め役割分担しながら対応するケースが頻繁にあります。この調整作業に苦勞することも少なからずありますが、質の高い回答を作成するためには必要な作業となります。調査局は議員へのサービス部門であり、どれだけ的確に相手のニーズに応えられるかが調査員に求められる能力であると思います。

出向（環境省）

係長時代に環境省へ出向し、国内や外国産の希少野生動植物種の保全等に関する野生生物行政等に携わり、環境大臣の許可に関する業務等を経験しました。例を挙げると、動物園にいる「トラ」は法律に基づき国際希少野生動植物種に認定されているため、環境大臣の許可がなけ

れば、A動物園からB動物園への譲渡等が勝手にはできません。両方の動物園から譲渡目的等の必要事項を記載した許可申請書の提出を受け、環境省で精査・確認し、譲渡を許可することになるのですが、許可と言っても動物と言えは犬や猫といったペットレベルの知識しかなかった私にとっては、全くの門外漢であり、最初の頃はとまどうことが多々ありました。立法機関である国会とはかなり異なる世界でしたが、様々な場面で色々な方に助けられ、いい経験になったと実感しています。

議事部

入局11年目に議案課に配属となり、「議員提出法律案」や議員が内閣へ文書で質問する「質問主意書」を受理する業務等を経験した後、本会議の運営事務を行う議事課に異動しました。議事課時代で印象に残っているのは、法律案の再議決が行われたことです。当時は衆参両院でそれぞれに多数派を占める会派が異なるいわゆる「ねじれ国会」であり、衆議院で法律案を可決しても、参議院で否決されてしまうケースが何回かありました。その場合、憲法の規定に基づき、再度衆議院の本会議において、出席議員の3分の2以上の多数で再び可決しなければ法律は成立しません。衆議院の多数派の議員構成はこの条件を満たしており、再議決自体は可能でしたが、否決された法律案の再議決について

は、昭和26年に1回行われたのみであり、どのように議事運営を行うのかについて課内で慎重に議論を重ねました。本会議で再議決が行われた翌日、「57年ぶり2例目の再議決」と大きく報道されていたのを覚えています。

受験生へのメッセージ

振り返ると、公務員志望であった私も「衆議院事務局」という就職先をよく知らず、具体的な仕事のイメージはあまり持っていませんでした。また、国会と言っても立法に関わる部署だけでなく、様々な部署があります。私自身、前述した業務の他に、人事課で職員の給与・法規に関わる業務や国際部で議員の国際会議派遣等に関する業務にも携わりました。学生の皆さんも幅広い業務を経験し、自分の特性を活かしてキャリアアップできる可能性があると思います。

また、女性職員数が多いのも衆議院事務局の特色の1つではないでしょうか。調査局について言えば、以前は各調査室の女性調査員は1名だけという部屋も多かったのですが、現在は女性が半数近くを占める部屋もあり、女性にも働きやすい環境になっています。

衆議院事務局のイメージは堅いと思っている学生の方も多いと思います。でもいったんその考えを振り払って、一歩足を踏み入れてください。来年の春に皆さんと働けることを楽しみにしています。

Case3 一般職（大卒程度）



飯嶋 正雄

委員部副部長議院運営課長事務取扱

平成4年4月	衆議院事務局採用 運輸委員会調査室
平成8年7月	委員部各課
平成13年7月	国土交通省へ出向
平成15年9月	調査局国土交通調査室
平成22年7月	委員部各課
平成26年12月	副議長秘書
平成29年10月	委員部各課
令和2年7月	委員部第七課調整主幹
令和3年7月	委員部第二課調整主幹
令和4年7月	委員部第二課長(兼)委員部第三課長
令和5年1月	委員部総務課長
令和6年7月	委員部副部長議院運営課長事務取扱

休日は「乗り鉄」として仲間と各地を旅行し、地元料理や景色を満喫していましたが、コロナ禍のなか新たな趣味としてメダカ飼育に目覚めました。睡蓮鉢の中で気持ちよさそうに泳ぐ姿に癒されています。

入局

平成4年に衆議院事務局に入局。採用パンフレットを見て、それまで知らなかった国会職員という仕事に興味を持ったのがきっかけ。

運輸委員会調査室（現国土交通調査室）

初めての職場で緊張の毎日。業界用語に戸惑いながら、審議会の答申や新聞、業界紙等で情報収集に努めた。メイン業務の一つである議員からの調査依頼対応は、上司の指示でデータや資料を揃えることが中心ではあったが、係員でも説明を任される機会があり、「よい資料をありがとう」と言ってくれたときはとても嬉しく、やりがいを感じた。

委員部各課（4番手）

4番手と呼ばれる一番若手として、委員会関係文書の起案、委員連絡、答弁者の到着確認などの業務を任された。秘書等からの問合せに適切な回答ができず上司に対応してもらうなど、知識不足を痛感することが多く、先輩に疑問点を質問したり、同期と情報交換や法規・先例の勉強に励んだ。色々な委員会を経験するために部内異動も多く、複数の委員会を経験。刻々と変わる状況を担当全員で共有できる体制になっているため、チームで仕事をしている一体感を感じることができた。

出向（国土交通省）

専門工事業の振興や建設業の組合制度等を所

管する建設振興課に配属。厳しい競争のなかで新規事業等に取り組む事業者からの要望に対し、係長とはいえ担当者として直接対応を行うことも多く、今まで経験したことのない種類の責任の重さを実感する毎日だった。業界の課題を踏まえて検討を行っていたプロジェクトに予算がつき、実際に動き出すという一連の流れを経験でき、国会職員とは異なる貢献の仕方を実感した。

調査局国土交通調査室

出向時に経験した建設業のほか、道路、海事、観光などの分野を順次担当し、調査依頼対応や法案参考資料の作成、国内委員派遣の随行などの業務に励んだ。課長補佐となり担当分野の責任者を任せられ、議員に直接説明する機会が増えた。多忙な議員や秘書からは短時間でポイントを押さえた説明を求められるため、説明能力の向上にも努めた。

委員部各課（キャップ）

委員長、理事等の議員対応を行うキャップとして、委員長の指示のもと委員会運営事務を行った。議員や政府等、関係者の間で調整役を務めるためには相手の信頼を得ることが重要であり、常に誠実に対応することを心掛けた。理事懇談会等において法規や過去の事例等の説明を求められた際は、その場で適切な対応をしなくてはならず、前日に回答に窮する場面を夢に見るほどプレッシャーを感じることもあったが、国民生活にとって重要な法案の採決が瑕疵なく行われた時などには、役割を果たせたとい

う充実感を味わうことができた。

副議長秘書

国会の動き等を副議長に報告すること、本会議などに出席いただけるよう日程調整を行うこと、その他副議長の求めに応じて資料作成等を行うことや、宮中行事、海外派遣の随行が主な業務であった。在任中に、選挙制度、生前退位についての協議が行われ、副議長と共に行動することで、生の政治の動きを最前線で体験することができた。

委員部各課（キャップ）、各課調整主幹、第二課長(兼)第三課長

議院運営委員会の担当となり本会議運営についての知識を深めた後、委員部の管理職に。経験を踏まえた具体的なアドバイスができるよう努めるとともに、課員が能力を発揮できるよう、仕事をしやすい環境づくりを心掛けている。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局には、会議運営、調査などの独特の業務に加え、行政府への出向や秘書業務まで多種多様な経験を積むチャンスがあります。異なる業務を経験しながら自分の適性に合った分野を見つけ、仕事へのやりがいを感じることができ、衆議院事務局はそのような職場であると思っています。このパンフレットをご覧いただき、行政府のように直接的ではありませんが、議員活動を通じて社会に貢献できる仕事に関心を持っていたいただければ幸いです。

キャリアパス —職員の歩み—

Case4 一般職（高卒程度）



黒野 清高

委員部議院運営課委員専門職
(兼)懲罰委員会専門職

平成10年 4 月	衆議院事務局採用 管理部第一議会議会館課
平成12年 4 月	国際部総務課
平成15年 1 月	委員部各課
平成23年 9 月	議事部請願課
平成25年 7 月	議事部議案課
平成28年 7 月	委員部各課

長距離ドライブが好きなので、連休があれば車で旅行をしています。目的地での観光よりも、その道中で、自然豊かな風景を見ながらドライブすることが楽しみであり、良いリフレッシュにもなっています。

入局

平成10年に衆議院事務局に入局し、管理部第一議会議会館課に配属となりました。議員と接する機会も多く、最初はとにかく顔と名前を覚えるのに必死でした。初めての職場でしたが、上司や先輩に恵まれ、気持ちよく仕事をすることができました。

国際部総務課

議員の海外渡航に関する業務として、公用旅券の発給請求の手続や外務省に対して事務連絡等を行っていました。議員や同行する職員の公務が円滑に行えるようにするための業務です。議員団の海外派遣には、入念な打合せや多くの準備が必要となりますが、無事に帰国した時には、安堵する気持ちと共にやりがいを実感することができました。

委員部各課（4番手～2番手）

初めて会議運営部門に配属となりました。主に4番手として文書作成や連絡業務、3番手として答弁者調整、2番手として参考人対応や事務全体の統括等の幅広い業務を行いました。自分で法規・先例を勉強しつつも、知識や経験が不足しているため、疑問点は率直に上司や同僚に相談して、日々待ち受ける委員会業務に立ち向かっていました。委員部は、委員会毎に担当職員がおり、キャップから4番手までがチームとして業務を行っています。困難も多いですが、同じ目標に向かって仕事する楽しさを実感できる職場です。委員会の現場は、与野党の議員が論戦を交わす独特の緊張感があり、まさに政治

が動く現場でもあります。他の職場では体験したい貴重な経験を積むことができました。国会情勢によっては予期できない事態も生じますが、無事に委員会が終わった時には、何ものにも代え難い充実感や達成感があり本当に心地良いものでした。委員部は部内の異動も多く、たくさん先輩・後輩や同僚と一緒に仕事ができる職場です。また、委員会運営には、現場の担当職員だけではなく、いろいろな側面からサポートする職員も多く、その両方を経験できたことはキャリアの中でも大きな財産となりました。

議事部請願課

意見書係として、主に地方公共団体の議会から衆議院に提出される意見書を受理し、委員会に参考送付することが業務でした。多くの地方議会から多種多様な意見書が提出されるので、幅広い知識が必要となります。第180回国会では5500件以上の意見書を受理しており、上司や同僚と協力して繁忙期を乗り切っていました。住民の代表である地方議会の意見や希望が一つひとつ意見書となっており、その責任の重さを感じる業務でした。

議事部議案課

議員提出議案係として、主に議員提出の法律案、決議案、質問主意書に関する業務を行いました。決議案の1つに内閣不信任決議案もありました。国会運営に直結する決議案でもあり、提出時期によっては迅速かつ正確に業務を行うことが求められます。また、質問主意書は、その答弁が閣議決定を経る重要なものであるため、

非常に人々の関心も高く、やりがいのある業務でもありました。

委員部各課（2番手～キャップ）

2度目の委員部では、委員会の運営に責任を負う立場となりました。これまでとは違ったプレッシャーを感じつつも、委員会担当のキャップとして強く意識することは、関係者と調整を行い、適正な手続を確保しながら、委員長を補佐することです。委員長から「ありがとう」と言っていたいた時には、本当に嬉しいものです。公正・円滑な委員会運営のために必要な努力は惜しみませんが、何より議員から信頼を得ることが重要であり、何事にも誠心誠意対応することを心掛けています。現場の最前線で重要な職責を担っている議員をサポートできる仕事でもあり、やりがいを感じないはずがありません。

受験生へのメッセージ

衆議院事務局と聞いて、どんな仕事をしているのかイメージが湧かないという方もいると思います。私も最初はそうでした。国会の中で、様々な形で議員をサポートできるところが、衆議院事務局の大きな魅力の1つです。また、就職をするにあたって、自分の長所を活かせる職場を見つけたことが大切だと思います。私は、会議運営部門に長く在籍してきましたが、衆議院事務局にはほかにも多くの部署があり、多種多様な仕事を経験することができます。国会に関心を持っている皆さんと一緒に働くことができれば嬉しい限りです。

Case5 一般職（高卒程度）



金山 朝里

内閣調査室調査員

平成18年 4 月	衆議院事務局採用 委員部各課
平成24年10月	管理部厚生課
平成28年 7 月	庶務部人事課
平成29年 8 月	人事院へ出向
令和元年 7 月	調査局総務調査室
令和4年 7 月	庶務部人事課
令和6年 4 月	調査局内閣調査室

週に3～4回、マシンピラティスに通っています。フレックスタイム制を利用して、朝のレッスンを受講してから出勤する日も。運動後に飲むプロテインのアレンジレシピを考えるのも楽しみの1つです。

入局

平成18年に入局。専門学校で開かれた説明会で、「国政を支える」国会職員という仕事があると知り、興味を惹かれたことがきっかけ。

委員部各課

入局から2年間、各課の庶務担当として勤務した後、総務課公報係へ。衆議院公報の原稿のとりまとめ、委員室管理、委員会に関する開会放送、傍聴券発行及び撮影録音許可手続等の業務に従事。複数の委員会が開会される日は、業務を同時並行で進める必要があり、カウンターに手続待ちの列ができることも。初めのうちは焦ってミスをしてしまうことも多く、先輩職員に何度も助けられた。

管理部厚生課

共済本部係で、共済組合全体的出納事務、支部の経理書類の確認、事業計画の作成及び決算等の業務に従事。これまでの仕事と打って変わって、書類作成や数字の確認がメイン。特に簿記を用いた出納事務に苦戦するも、先輩職員にーから教えていただき、少しずつ理解できるように。勉強の成果を試すべく、上司と一緒に日商簿記検定3級を受験したのも良い思い出（お互い無事に合格）。

庶務部人事課

入局10年目、庶務部人事課へ異動。審査係

で職員の諸手当（扶養・住居・通勤・期末勤勉・超過勤務等）の支給・認定業務を担当。手当は職員の生活にも直結するため、日々緊張感をもって業務を行う。また、職員からの問合せも多く、センシティブな内容を含むこともあることから、相手に対して誠実に、真摯に向き合うことを心掛けた。再度、審査係に配属された令和5年には、鉄道各社の運賃改定により、全職員の通勤手当の額を改定。膨大な作業量に、途中「運賃改定ハイ」になりながらも、チーム一丸となってやり遂げたときの達成感はひとしお。

出向（人事院）

国家公務員の災害補償制度を所管する職員福祉局補償課に配属。制度担当として、規則・通知等の改正、各省からの事例照会対応のほか、自らが講師となって実務担当者向け研修を実施するなど、不慣れな業務に試行錯誤の日々。心が折れそうになることもあったが、新たな出会いや学びに恵まれたこの2年間の経験は、その後の職業人生における大きな財産となった。

調査局（総務調査室、内閣調査室）

総務調査室では、地方税制、地方公務員制度などの分野を担当。これまで触れたことのない分野に戸惑う私に最初に与えられた任務は、調査局が年に1回発行する「RESEARCH BUREAU論究」に掲載する論文の執筆。テーマは「ふるさと納税」。様々な文献や関連資料を読み漁り、先輩調査員に指導を受けながら1

枚1枚原稿を執筆。大変な作業ではあったが、学ぶ楽しさや文章を書く面白さも実感。完成した冊子を手にした瞬間の喜びは今でも忘れられない。

現在所属する内閣調査室では、国家公務員制度や個人情報保護などの分野を担当。法案参考資料の作成や調査依頼対応など、調査員としてまだまだ勉強の日々だが、少しずつ自分の知識やこれまでの経験を生かせる場面が増えてきていることに嬉しさややりがいを感じている。

受験生へのメッセージ

私の入局当時は、一般職（高卒程度）採用者は、定型業務が多く、仕事の範囲も限定されていたように思います。しかし、昨今は、様々な職種への配置や行政府への出向など、採用種別の垣根を越えてチャレンジできる環境が整えられ、私自身もキャリアパスにあるとおり、色々な経験を積む機会をいただいています。

衆議院事務局の仕事は本当に多種多様です。2～3年ごとの異動は、学び直しなど大変なこともあります。いくつかになっても新しい分野に携われるワクワク感を味わうことができるのは、衆議院事務局の大きな魅力だと思います。このワクワクを皆さんと一緒に体験しませんか？是非お待ちしております。

管理職の部屋



日高 孝一

議事部副部長議事課長事務取扱

平成11年4月 衆議院事務局採用
委員会各課
平成14年8月 総務省へ出向
平成16年7月 調査局第二特別調査室
平成17年9月 委員会第五課
平成19年7月 庶務部人事課付
平成20年4月 外務省在アメリカ合衆国日本国大使館へ出向
平成23年5月 憲法審査会事務局総務課
平成23年9月 委員会調査課
平成24年12月 議長秘書
平成26年12月 委員会各課
平成30年8月 庶務部情報基盤整備室長
令和2年7月 委員会第六課長
令和3年1月 庶務部人事課長
令和5年7月 議事部議事課長
令和6年7月 議事部副部長議事課長事務取扱

息子が将棋教室に通い始めたのを機に、自らも将棋大会に参加するようになり、今年も社会人の団体戦に参戦中。負けても負けても次の対局に挑むことで、メンタル面は鍛えられていると自負しています。

Q. 衆議院事務局の魅力は何だと思いますか。

大きく二つあると思います。一つは、政治の動きを間近に感じることができ、政治の現場に携わることができることです。私自身も働き方改革の法案を審査した委員会を担当しました。注目を浴びる法律案の審査を行う際には、緊張感もありますが、このようにして政治が動くのだということを体感できます。これは他の職場ではなかなか体験できないものではないかと思います。もう一つは、衆議院事務局の業務が多岐にわたっているということです。主権者たる国民から選挙を通じて負託を受けた議員、全体としての衆議院の活動を支える業務を行っている衆議院事務局には、多種多様な業務があります。就職の時点で自分の得意分野、専門分野を決めかねている方も多いと思いますが、働きながら自分に合う分野、業務を見つけられるというのも衆議院事務局の魅力の一つだと思います。

Q. この時代に、衆議院事務局にとって重要なことは何であると考えますか。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大やデジタル技術の格段の進歩といった社会の変化、未経験の新しい事態にどのように対応していくかがということが重要になります。衆議院には先例集というものがあり、過去の積み重ねが非常に大切にされます。過去にない事態が起きたときには、過去の取扱いと調和を図りながら、新たな対応をすることが問われるわけですが、経験を積んだ職員の知識・知恵と若い職員の新しい感覚の融合によって、職員一丸となって対応を考えていけるとよいと思います。

Q. 人事課長経験も踏まえ、衆議院事務局を目指す受験生へのメッセージをお願いします。

衆議院事務局は、議院、議員の活動を支えるため、様々な形で議員にサービスを提供しています。より良いサービスを提供するためには、相手の話を正確に理解するための「聞く力」と、自分の考えを相手に理解してもらうための「話す力」が必要で、コミュニケーション能力はずっと磨いていかなければならないと思います。他方、多種多様な業務があり、多くの部署を経験することができますので、仕事をしながら自分の適性に合った業務を見つけることができます。民主主義の現場に立ちたいと思ってくださる皆さんはもちろんのこと、人を支えることに喜びを見いだす皆さん、現時点で自分の専門分野が決めきれない皆さんにもぜひ衆議院事務局で自分の可能性を試してほしいと思っています。

研修制度

衆議院事務局では、人材育成のため、職員の研修に力を入れています。現在実施している主な研修としては、次のようなものがあります。

階層別研修

初任者、係員級、係長級、課長補佐級、管理職と、役職段階ごとに研修を用意しており、それぞれの職責を全うするために必要な知識、能力等を修得するためのカリキュラムを組んで実施しています。

海外派遣研修

海外大学院において研究に従事させることにより、国際化する衆議院の活動に対応し得る専門的な知識、能力を修得させるため、海外大学院派遣研修を行っています。また、職員を海外に派遣して調査等を行わせる短期海外派遣も行っています。

海外大学院派遣実績

- ・エディンバラ大学大学院 比較公共政策学修士課程（英国）
- ・ユニバーシティカレッジロンドン大学院 民主主義・比較政治学修士課程（英国）
- ・クイーンメアリー・ロンドン大学大学院 公共政策学修士課程（英国）
- ・バース大学大学院 国際関係学修士課程（英国）
- ・シェフィールド大学大学院 法学修士課程（英国）

国内大学院派遣研修

国立大学大学院等の修士課程等において研究に従事させることにより、議院運営及び立法調査に関する専門的な知識、能力を修得させるため、国内大学院派遣研修を行っています。

国内大学院派遣実績

- ・一橋大学国際・公共政策大学院 公共法政プログラム
- ・防衛大学校 総合安全保障研究科
- ・政策研究大学院大学 公共政策プログラム
- ・政策研究大学院大学 まちづくりプログラム
- ・新潟大学大学院 現代社会文化研究科

※この他、日本経済研究センターへの派遣等も行っています。

その他の研修

人事院の実施する行政研修、デジタル庁の実施する情報システム統一研修、総務省の実施する統計研修、財務省の実施する会計事務職員研修といった各府省等が実施する研修にも積極的に職員を参加させています。それ以外にも、調査局における調査員の能力向上を目的とした研修等、各職場における独自の研修も行われています。

語学研修

レベル別の英語研修を行っており、国際会議、議員随行、在外公館勤務や海外大学院派遣研修等の職務遂行に必要なコミュニケーション能力等の向上を図っています。必要に応じてフランス語や中国語の研修も行われます。

石塚 誠人【英国クイーンメアリー・ロンドン大学大学院】（平成30年入局）

07：30 留学生の朝は早い。前回の講義で示された理論を復習するとともに、議論に積極的に参加できるよう入念に準備を行う。

09：00 午前の講義が始まる。英語で行われる講義や議論は緊張感があるが、知的好奇心が刺激される時間でもある。

12：00 友人と共に昼食へ。QMULは170か国以上の国から来た留学生が全体の約4割を占める大学で、世界各地から集まった同世代との交流は自らの視野を想像以上に大きく広げてくれる。

14：00 次回の講義に向けた文献調査を行う。今後必要となる資料を収集するとともに、自らの考えを洗練させる。

18：00 課外活動のオーケストラのリハーサルに合流する。音楽が世界共通の“言語”であることを再認識すると同時に、語学力に更に磨きをかける必要があることを強く痛感する時間でもある。

いかがでしたか。紹介した事例は一例ですが、大学院生活の雰囲気が少し伝わったかと思います。国会はドメスティックな職場と思われるかもしれませんが、活躍の場は国内に留まりません。世界を舞台に活躍できる衆議院事務局で共に働けるのを楽しみにしています。



高橋 まりえ【政策研究大学院大学 公共政策プログラム】（平成26年入局）

私は現在、政策研究大学院大学にて1年課程の研究活動に従事し、公共政策を学んでいます。当大学院では、政策実務家としての能力向上を意識したプログラムが組まれており、実践的な思考力、知識、能力を養えます。1年間で修士号を取得するプログラムであるため、大変だと感じる時もありますが、これまでの業務経験とアカデミックな理論が結びついて理解が深まることが面白く、新たなことを学習する楽しさを感じています。

また、大学院の同級生には地方自治体をはじめとする官公庁出身者が多く、国会の業務ではなかなか窺い知ることができない政策実施現場の事情を知る機会もあり、とても勉強になります。日本人学生より外国人留学生の方が多いという国際的な環境の中で、多様な背景を持つ人々と共に学び、交流するという、働きながらにして得難い経験をしています。

衆議院事務局は研修制度が充実しており、職員の能力向上を積極的に支援する環境が整っています。私も大学院への派遣に当たり、多くの上司・同僚の方々に応援していただきました。早く送り出してくれた職場に感謝しつつ、日々研究に励んでいます。



先輩インタビュー — 新人が聞いてみました！ —

入局1年目の「新人さん」が先輩たちにインタビュー！
仕事内容や衆議院事務局の魅力はもちろん、職場の雰囲気や繁忙期と閑散期の違いなど、受験生が気になるあれこれを探ってきました！

令和6年入局の玉腰千紘です。
庶務部人事課で採用を担当しています。
パンフレットを通して、
皆さんに衆議院事務局の魅力を
お伝えできればと思います！



インタビューに答えてくれた先輩職員の皆さん



石原 諒人
令和4年入局
議事部議事課



高橋 まりな
令和4年入局
調査局総務調査室



中野 立樹
令和5年入局
庶務部情報基盤整備室



濱崎 祐希
令和5年入局
国際部渉外課

これまで経験した業務内容について教えてください。

石原 最初の配属は委員部の議院運営委員会担当で、その後、厚生労働委員会の担当となり、一番下の4番手を経験しました。現在の所属である議事課では、最初の1年は先例と調査の担当として、内外からの問合せ対応も含めた本会議関係の調査をしていました。現在は、議事係という、本会議で扱う議事内容のほか、議院運営委員会理事会や議院運営委員会で協議される事項についてまとめた資料を作る係で働いています。

高橋 私は、入局時から総務調査室で働いています。総務調査室は総務委員会所管の地方自治や地方税財政、情報通信、郵政などに関する調査を行う部署です。具体的には、法律案等参考資料を作成して委員に配ります。また、法案に関係なく議員事務所から個別の調査依頼もあるので、その対応もしています。

玉腰 1年目の職員でも議員に説明することはありますか。

高橋 調査員は法案の内容に関することを説明するので、1年目の職員がいきなり一人で説明することはないです。基本的に説明をするのは上司で、その補足説明をすることはあります。

濱崎 私は民間企業で5年ほど働いた後、衆議院事務局に入局し、現在に至るまで国際部渉外課で勤務しています。在京大使館や外務省経由で外国の議長や議員が衆議院議長や衆議院の委員会の委員長にお会いしたいという依頼が来るので、関係部署と調整しながら、懇談の日時や場所等のアレンジをするというのが基本的な業務です。そのほか、外国の議長が就任した際のお祝いの書簡を議長名で発出したり、外国の方に英語で国会の案内をしたりもします。

また、韓国国会事務局*との事務局間交流があるのですが、その担当もしました。韓国語を少し勉強していたこともあり、アンニョンハセヨとかチョウムペクセスムニダとか言ってみたり…。

*韓国の国会事務局



韓国国会事務局の職員と

中野 なんて言ったんですか？

濱崎 こんにちは、はじめまして、です。(一同：おー)

玉腰 国際部は英語をはじめ外国語の能力が必要かと思いますが、英語は得意ですか。

濱崎 英語研修を半年ほど受けていたので、多少は話せるようになりましたが、それまでは英語で電話が来るとパニックになってしまうくらいのレベルでした。英語力はあった方がいいですが、入局後に勉強する機会もあるので、心配しなくても大丈夫です。

玉腰 私も英語研修を受けています。

中野 私は、最初は委員部調査課で、2つの特別委員会の担当と調査係、3つの係を兼務していました。大変でしたが、なんとかやり切りました。また、今年の7月に庶務部情報基盤整備室に異動になりました。委員会運営から離れて、衆議院全体のシステムの管理や皆さんが使用するパソコンなどの管理をしています。入局2年目ですが、いろいろな経験をしていると思います。

衆議院事務局を知ったきっかけや志望理由は何ですか。

石原 大学に置いてあったパンフレットで、国会職員という仕事の存在を知りました。元々、日本の政治史や議会政治といった政治学が好きだったので、公務員という選択肢は考えていたものの、政府の職員のみを想定していました。国会職員を知ったときにこういう職場もあるのかと思い、強い興味を持ちました。

高橋 大学の先輩で衆議院事務局に入局した方の話を聞いて知りました。大学入学時に上京したのですが、絶対に東京で働きたいという気持ちがあり、最初は「ずっと東京で働けるんだ！」という安直な動機ではありました。また、行政機関にはさまざまな組織があるのですが、立法というと国会しかないと思い、その特殊さに魅力を感じ、国会で働くことを目標としていました。

玉腰 国家公務員で転職がないのは大きいですね。

高橋 人生設計も立てやすいです。

濱崎 公務員に転職しようと調べていく中で、民間にはないさまざまな業務があることに加えて、国会で働くという他にはない唯一無二な感じがカッコいいなと思いました。

玉腰 民間企業からの転職ということですが、前職は政治に関連のある仕事だったのですか。

濱崎 政治は関係ないですが、貿易関係だったので、国際系の仕事ではありました。官公庁とのやり取りも多く、そこで公務員として働くことへの興味を持ちました。

中野 長期的に勉強するということを成し遂げたら新しい自分に出会えるのではないかと、公務員試験の勉強をしていました。そんな中で大学の公務員講座のパンフレットを見ていたら、衆議院事務局に受かりましたという先輩がいて、衆議院事務局を知りました。

高橋 先輩に導かれて…

中野 今ここにいます。

最終的な入局の決め手を教えてください。

高橋 他の機関も受けましたが、衆議院は会議運営から調査まで幅広い業務があることに加え、異動で新しい分野の担当になったりすることもあるので、分野にとらわれず、自分の知識の幅を広げることができるところに魅力を感じ、衆議院に決めました。



玉腰 異動すると、転職したくらい業務や雰囲気が変わると聞いたことがあります。

濱崎 私は、元々政治や時事的なことに興味があったのですが、特定の分野や政策に思い入れがあるというわけではなかったのですが、さまざまな部署がある衆議院事務局ではその時々でやりたい仕事が見つかるだろうと思ったのが決め手でした。

玉腰 幅広い分野に興味がある人や特定の分野に絞りたいという人にはぴったりな職場ですね。

石原 おっしゃる通り。

中野 私は国会議事堂を見たときに決意しました。

高橋 建物で決めたんだ。

中野 国会議事堂を見ていると小さいことがどうでもよくなるほど圧倒されますよ。建物が素晴らしいという点ではここが1番だと思います！あとは、採用試験を受けた際の職員の方の雰囲気も良かったです。

石原 決め手はないというか、国会に勤めることを強く希望していました。他の公務員試験や民間企業も受けてはいましたが、落ちたら考えようというくらいでした。

中野 石原さんは総合職ですね。採用予定数の少なさで不安はなかったのですか。

石原 不安しかなかったです。受かるとはあまり思っていなかったのですが、合格したときにはびっくりしました。

出身学部について聞きたいです。

玉腰 濱崎さんと中野さんは法学部以外のご出身とのことですが。

濱崎 教育学部出身ですが、業務をする上であまり不利だと感じたことはありません。同僚がどの学部出身なのかも知らないです。多少は、法学部出身者は有利なのかもしれませんが、部署によって業務内容が異なりますし、異動をすれば一から学びなおす必要があると思いますので、あまり気にはしていません。

玉腰 法学部出身者でも国会法を学んでいたという人はあまりいないですよ。

高橋 趣味で学ぶとかでない限りあまりいない気がします。

石原 政治史に通じていれば、業務上の予備知識には困らないかもしれませんね。

中野 私は社会学部ですが、特に不利だと感じたことはないです。先輩で消費者問題関係の法律を学んでいた方が、関連する調査室に配属されたと聞いたことはあるので、得意な分野があれば、関連する部署に配属される人もいるのかなと思います。

玉腰 私の同期も法科大学院出身者、理工学部出身者、人文系の学部の出身者など多様な印象があります。

高橋 いろんな人に受験してほしいですね。

玉腰 どんな学部の出身者でも活躍できる職場だなと思いました。

事務局に対して、堅いイメージを持つ受験生も多いと思いますが、職場や職員の雰囲気はいかがですか。

高橋 議員に説明するときなど、ある程度の緊張感を持たなければいけない場面はもちろんありますが、業務を進める上で意見を出し合ったり、業務外でも雑談をしたりと穏やかな雰囲気で話しやすい環境です。

濱崎 上司が部下に対して敬語で話していることに驚きましたが、穏やかな雰囲気です。雑談もしますし、お菓子をくれる人もいます(一同：笑)。あとは、仕事や趣味で目標を持っている人や自分で勉強をしている人が多い印象です。

中野 特に委員部時代は、オンオフの切り替えがはっきりしているなと思いました。仕事をしているときはスイッチが入っている状態で、仕事が終われば飲みに行ったり、朝までカラオケに行ったりしました。一方で、情報基盤整備室は、委員部とは雰囲気がかなり違いますが、だからと言って静かに仕事を続けるというわけではなく、和やかな雰囲気です。



石原 運営系の部署は、話が好きな人が多いなと思いました。常に職員同士お互いにコミュニケーションを取りながら仕事をしています。特に委員会担当のキャップは議員への説明の機会も多いので、話上手であることも重要なかなと思っています。

入局してから、印象に残っていることはありますか。

濱崎 スウェーデンの国会議長の招待が印象に残っています。空港での出迎え、移動手段や食事の手配、衆議院議長との懇談のセットなどやるのが非常に多く、大変ではありましたが、スウェーデン

先輩インタビュー — 新人が聞いてみました！ —

の議長から労いの言葉をもらった際は感慨深かったです。

玉腰 文化や宗教等の違いを考慮に入れて準備をするのでしょうか。

濱崎 国によっては、宗教等の理由で食事の配慮が必要なこともあります。

中野 世間での注目度が高い法案の審査に関われたことです。自分の目の前で繰り広げられていた論議がニュースで報じられていたときは嬉しかったですし、何日もかけて議論された法案の審査が終わったときは達成感でいっぱいでした。

石原 議院運営委員会を担当していた際に、国会会期末に内閣不信任決議案が提出されたときに忘れられません。座学的な知識はありましたが、実際に提出から本会議での採決に至るまでのプロセスに関与し、政治のリアルを目の当たりにすることができ、実務に携わっているのだと実感しました。

高橋 委員会で質疑のメモ取りをしていた際に、全国放映のテレビに映っていたことが印象に残っています。放映されることは知っていたのですが本当に映っている！って。

中野 私もテレビに映ってみたかったです。

玉腰 それも衆議院事務局の特徴のひとつかもしれませんね。

採用1年目と比べて成長したと感じるときはありますか。

濱崎 私は元々消極的なタイプの人間だったのですが、1年目から多くの仕事に携わる中で、やってみれば意外と何とかなるということを知り、物怖じせずに仕事に取り組むことができるようになったと思っています。

中野 資料の作成など、先を見通して作業ができるようになったときは成長したなと感じます。採用当初より効率よく仕事ができるようになったと思います。

石原 国会関係の知識が座学的な意味でも実務的な意味でも増えたと思います。あとは、中野さんと被りますが、会議の運営において起こりうることを予測して業務を進めることができるようになりました。

高橋 調査室では、文章を書く場面が多いので、文章の構成力はかなり向上しました。

繁忙期と閑散期について教えてください。

中野 情報基盤整備室は異動したばかりなので、まだ分かりませんが、委員部に関しては、国会会期中は忙しく、委員会の前日は退庁時間が遅くなることもありますね。

玉腰 国会会期中かどうかで、繁忙期と閑散期がはっきりしていると聞きますが、実際はいかがですか。

中野 委員部はそうですね。メリハリがあると思います。同じ運営部門でも議事課はどうですか。

石原 議事課も同じです。ただ、会期中でも、委員会の場合は定期的に繁閑の差があることが多い一方、本会議は基本的にコンスタントに開かれるので、開会中は常に仕事があります。議事課も本会議前日に準備がありますが、若干の残業のみで退庁できることが多いです。小さなお子さんを育てながら働いている方も少なからずいらっしゃいます。



高橋 調査局も国会会期中が繁忙期、閉会したら閑散期という感じがですが、自分が担当している法案が衆議院を通過したら、会期中であっても休みを取りやすいです。閑散期は定時で帰っていますし、休みもかなり取っています。ワークライフバランスは取れています。

濱崎 国際部は繁忙期と閑散期がはっきりと分かれてはいません。外国議長の招待は開会中に行われますので、必然的に開会中は忙しくはなります。国際部は当日中にやらなくてはいけないことや急ぎでやらなくてはいけないことがあまりなく、イベントに向けてある程度の期間をかけて準備することが多いので、招待業務の準備をしているとき以外は特に残業はしていません。また、同じ部署の男性職員が育休を8か月程度取っていました。

玉腰 男性も育休を取りやすい環境なのですね。

濱崎 そうですね。日ごろから、上司から休むようにと声をかけてもらえますし、上司自身も休暇を取っているので、働きやすいです。

玉腰 どの部署も想像していたよりもワークライフバランスが良いと思いました。

受験生へのメッセージをお願いします。

石原 自分が関わった仕事ニュースになったり、政治や国のこれらに関わることができることに魅力を感じていますし、衆議院事務局に入局してよかったと思っています。学部問わず、関心があればぜひ受験してみてください。

高橋 就活中は精神的に疲れることもありますが、納得した進路に進めるように頑張ってください。行きたいなと思った職場の中に、衆議院事務局があればそれは大変嬉しいことです。合格後は、海外へ旅行に行ったり、のんびりと過ごしたりなど、社会人になる前にやりたいことをやってほしいです。

濱崎 数年前まではこうして衆議院事務局で働いているとは全く思っていませんでした。先の自分が何を考えているか全くわからないと思うので、何をしたいとかどこに行きたいとか、直感を信じたらいいと思います。パンフレットや説明会で衆議院事務局に入りたいと思ってくれる人がいれば嬉しいです。

中野 公務員試験の勉強は辛いと思いますが、長い時間かけて勉強する習慣が身についていると思うので、今後も継続してほしいなと思います。

玉腰 皆さん、ありがとうございました。

(令和6年8月開催)

私たちと一緒に

国会で働いてみませんか？



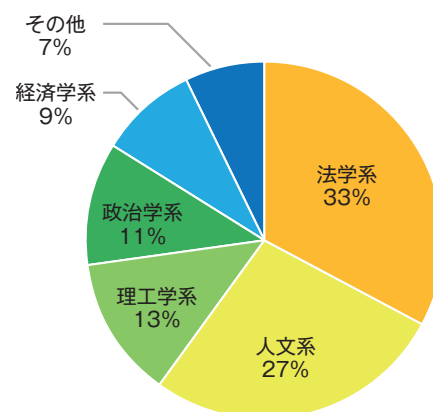
若手職員に聞きました！

入局1年目から3年目までの若手職員にアンケートを実施しました。
入局して実感した本音を含めたフレッシュな声をお届けします！

衆議院事務局を志望した理由は？

- ・様々な価値観を持つ議員が集い、論議を交わす政治の最前線を支えることができることに興味を持ったからです。
- ・部署異動によって、その所々で大きく異なる業務内容を経験でき、自分に合った部署が見つかると感じたからです。
- ・衆議院という歴史ある場所で働けること、国会の流れを肌身で感じながら働けることに魅力を感じたからです。
- ・理工系（情報系）の知識を活かして、技術的な側面から国会運営に貢献したいと思ったからです。
- ・業務説明会で登壇されていた職員の皆さんの雰囲気明るく、楽しそうな職場だと思ったからです。

修了した学問系統（大卒程度）



令和6年度初任研修の議長公邸見学に於いて

どのような人が職場に多いか

- ・話しかけやすく、コミュニケーション力がある人。不測の事態への判断が早く、臨機応変に行動できる人。
- ・仕事をしているときと雑談しているときのメリハリがあります。地方出身の方が想像していたより多かったです。
- ・育児やプライベートの時間とのバランスを取りながら、柔軟に働く人。率先して動くことのできる人。
- ・性格に関しては多種多様な人がいますが、全体として、好奇心旺盛で勉強熱心、仕事に真摯な人が多いと感じます。

学生生活の経験が活かした場面

- ・学業、部活動、アルバイトの両立のため、物事に優先順位をつけて取り組んだ経験。
- ・卒業論文を書くために色々な文献を調べたことが、現在先例や運営理論を調べる際に役立っています。
- ・部活で身につけたトライ&エラーの精神は、仕事でも課題クリアのための礎となっています。
- ・多忙な店舗での接客アルバイトで培った臨機応変な対応は、職務全体で活かしています。

衆議院事務局のおすすめポイント

- ・事務局内にあるインドカレー屋さんがとてもおいしいので非常におすすめです！
- ・個性豊かな同期と出会える素晴らしい職場。ワークライフバランスも取れるホワイトな職場環境！！完璧♪
- ・転勤が基本的にないため、人生設計を行いやすい点。
- ・歴史ある議事堂の建物内で働くチャンスがあるところ。

Q & A —採用と働き方について—

採用試験について教えてください。

独自の採用試験として、総合職試験（大卒程度試験）、一般職試験（大卒程度試験）、一般職試験（高卒程度試験）、衛視試験を行っています。また、国家公務員採用一般職試験（大卒程度試験・高卒者試験）最終合格者のうち、技術系の区分で合格された方を若干名採用しています。採用試験の日程や申込方法等については、HPで最新の情報をご確認ください。

勤務地はどこですか？

基本的に、国会議事堂内及びその周辺（分館、第一議員会館、第二議員会館、第一別館、第二別館等）になります。一部の出向や海外派遣を除き、原則として転勤はありません。

給料や手当について教えてください。

給料は一般職の国家公務員の給料に準じた額となります。給料の他には6月期、12月期に期末・勤勉手当が支給されます。また、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等がそれぞれ個人の状況に応じて規定の範囲内で支給されます。

初任給の例（令和6年4月1日時点 ※地域手当含む）	
総合職（大卒程度）	月額240,840円
一般職（大卒程度）	月額235,440円
一般職（高卒程度）短大卒等	月額211,320円
一般職（高卒程度）高校卒等	月額199,920円

※月額額は、パンフレット編集時点での規定に基づく額です。

法学部出身者や法律に詳しくないと働けますか？

そんなことはありません。事務局の業務は非常に幅広く、法律に限らず様々な分野の知識が活きる場があります。実際、法学部以外の学部出身者も多く、文系理系を問わず様々な知識・経験を持った職員が活躍しています。

行政府各省庁との違いを教えてください。

最も大きな違いは、立法府を補佐する立場であるということです。各省庁は政府と協力して政策の立案などを行いますが、衆議院事務局に何よりも求められるのは「政治的中立性」です。国会の議論に資することなら与野党問わず協力し、常に冷静に、公正に、国民の代表である国会議員を支えています。

採用説明会は行っていますか？

大卒程度試験受験希望者を対象として、オンライン説明会（秋～3月）や事務局で開催される局内説明会（1～2月頃）を毎年行っています。また、総合職（大卒）1次試験終了後、一般職（大卒）2次試験終了後及び一般職（高卒）・衛視1次試験終了後に、受験者のうち希望者を対象に説明会を行います。そのほか、各大学・専門学校等において業務説明会を実施しています。各種説明会の開催予定はHP及びX（旧Twitter）でご案内しています。

採用後の異動について教えてください。

入局時、総合職（大卒）、一般職（大卒）採用者は会議運営、調査事務、一般事務に、一般職（高卒）採用者は主に一般事務（庶務部、管理部等）や会議録作成事務（記録部）に配属されます。入局後しばらくの間は、様々な経験を積んでもらう必要があるため、数年サイクルで異動します。その後は、本人の適性・希望などを考慮して異動先が決定されます。

休日・休暇制度はどのようになっていますか？

年間20日の年次休暇があるほか、特別休暇（結婚・保育・看護・忌引・夏季等）、介護休暇、育児休業などがあります。

福利厚生等はどのようになっていますか？

衆議院共済組合員として、組合の給付等を受けることができます。健康管理、年金制度・財形貯蓄といった生活保障・サービス等、様々な福利厚生事業が行われています。なお、宿舎に関しては、衆議院独自の男女独身寮及び世帯寮があるほか、財務省の管理する合同宿舎（独身用・世帯用）などが都内及び近県にあります。

どのような人が衆議院事務局に向いていますか？

政治的中立性と国会議員からの信頼が大切な職場なので、公正不偏で誠実に働ける方が求められます。知識や経験の面では、部署によって求められるものが多種多様なため、一概には言えません。どのような方でも向いている仕事が見つけられる職場とも言えます。

女性職員の割合
36.3%

女性の育休取得率
100%

男性の育休取得率
62.0%

年次休暇
平均取得日数
16.8日
(年20日付与)

河内 愛 庶務部会計課課長補佐（平成15年入局）

第1子（長女）、第2子（長男）出産後、いずれも子どもが1歳くらいになるまで育児休業を取得しました。職場復帰に際しては育児と仕事の両立のための制度が充実しており、復帰後も温かく迎えていただきました。現在は子どもの保育園送迎のため、育児時間の取得、休憩時間の短縮を組み合わせ、勤務しています。

子育てをしながら働く職員も多く、周囲の理解により子どもの体調不良時や保育園行事などのための休暇を1時間単位で気兼ねなく取得できる環境はとてありがたいです。また、これまで新型コロナウイルスの影響による託児先保育園の休園が何度もありましたが、夫と協力しながら年次休暇・特別休暇やテレワークシステムを活用させていただき、上司や同僚のサポートを得て乗り切ることができました。

このように育児と仕事の両立支援制度が整備され、その制度を活用して無理なく柔軟な働き方がしやすい環境が整っているということも衆議院事務局という職場の魅力のひとつではないかと思っています。



野澤 一真 憲法審査会事務局調査第五係長（平成27年入局）

「きゃ～！パパだ～！」と走り寄り、私に抱きつく娘。このような保育園のお迎えのシーンから、一日の後半戦がスタートします。

私は娘が誕生した際、約半年間の育児休業を取得しました。仕事や趣味は長い人生の中でいつでも取り組めますが、生まれた子がいわゆる赤ちゃんでいる期間は、あっという間に過ぎ去ってしまうため、この貴重な時期を逃して後悔しないよう、育児に全力で取り組もうと決意し、上司に育児休業の相談をしました。ニュース等では、男性が育児休業を申請すると圧力をかけられるという事例を耳にしていたのですが、当局では全くそのようなことはなく、むしろ周囲の方々から応援のお言葉を沢山いただくことができました。

現在、私は憲法審査会事務局において、憲法に関する調査業務を担当していますが、周囲の方々の温かいサポートをいただきながら定刻より早く退庁し、冒頭記載のとおり、娘のお迎えに行っています。

家に連れて帰るとすぐにパパ追いが始まるため、家事が進まず、また、いわゆるイヤイヤ期の絶頂でもあるため色々大変ですが、寝る時は私に身体をピッタリくっつけて寝るため、その娘の姿に毎度癒されながら、仕事と育児の両立した日々を過ごしています。



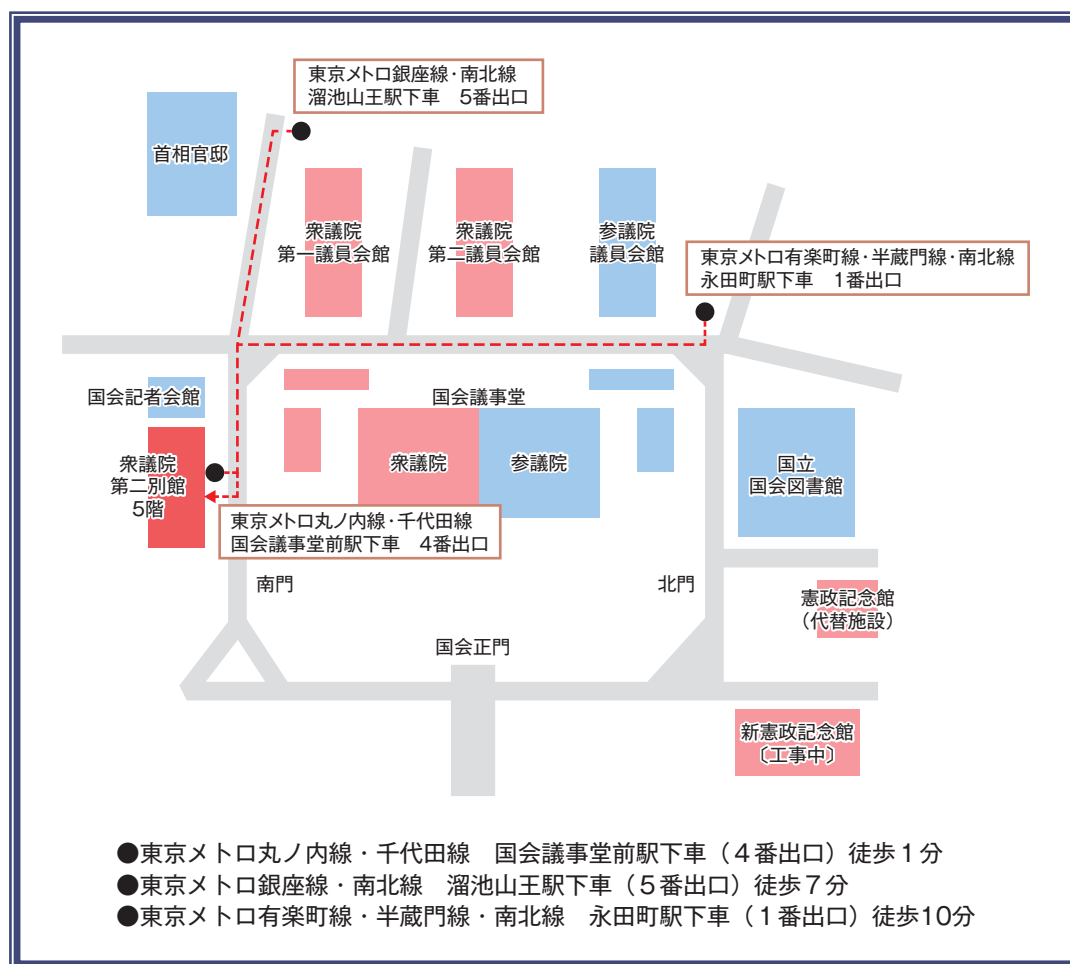
採用担当者からのメッセージ

民主主義国家である我が国では、国政のあらゆる案件が国民の代表によって日々議論されています。その活動を支える衆議院事務局も、これに対応して幅広い業務を担っています。立法過程の手続きを補佐する会議運営部門、あらゆる政策分野に対応した調査部門、その他衆議院が国家機関として機能するために活動する様々な部署があり、多彩な分野に挑戦することができます。

部署が異なると業務内容も大きく変わるため、人事異動のたびに新たに学び直すことも多いですが、広い視野で様々な分野に興味を向け、仕事を通して成長を感じたい方にはやりがいをもって働ける職場ではないかと思っています。ぜひ多くの皆様のお申込みをお待ちしております。



採用試験に関する最新の情報はHPへ！



◆お問い合わせはこちらまで

衆議院事務局庶務部人事課任用係

〒100-8960 東京都千代田区永田町1-7-1（衆議院第二別館5階）

TEL：03-3581-5111（代表）

E-mail：jssaiyou@shugiin.go.jp

URL：https://www.shugiin.go.jp



採用情報HP



X(旧 Twitter)

総合職、一般職
技術系職員
採用パンフレット